

山梨県立大学地域研究交流センター

2013

年度研究報告書

# 年 報

# 目 次

地域研究交流センター長挨拶「大学の地域貢献の革新に向けて」	1
I. 交流・支援部門	2
1. 交流・支援部門事業の概要	2
2. 交流・支援部門事業の実績と課題について	2
【交流・支援部門の個別事業】	3
1. 講師・委員等の応嘱	3
2. 学外からの相談等への対応	4
3. 高校大学連携講座の実施	4
4. 教員の地域貢献活動への支援	6
5. 学生による地域貢献活動への支援	6
6. 大学周辺自治会との連携	7
7. 池田地区総合防災訓練への参加・協力	9
8. 「池田地区健康まつり」への参加・協力	10
9. 看護・福祉専門職支援	11
10. その他	11
II. 情報発信部門	12
1. 情報発信部門事業の概要	12
2. 情報発信部門事業の実績と課題について	12
【情報発信部門の個別事業】	13
1. 年報の発行	13
2. 地域研究交流センターニューズレター「tobira」の発行	13
3. ウェブサイトでの情報発信	14
III. 生涯学習部門	15
1. 生涯学習部門事業の概要	15
2. 生涯学習部門事業の実績と課題について	15
【生涯学習部門の個別事業】	16
1. 地域研究交流センター主催講座	16
(1) 春季総合講座	16
(2) 観光講座	16
2. 県民コミュニティカレッジ	17
(1) 広域ベース講座（4回）	17
(2) 地域ベース講座（4回）「知っているようで知らないこと」	18
3. 地域連携講座	18
(1) 日本語・日本文化講座	18
(2) 幼児教育センター月齢別講座(人間福祉学部)	18
(3) 幼児教育センター月齢別講座(看護学部)	20

(4) 第4回子育て食育講座	21
(5) 子育て支援リーダーステップアップ講座	21
4. 学部共催講座	25
(1) 人間福祉学部講演会	25
(2) ソーシャルワークセミナー2013	26
(3) 第7回子育て支援フォーラム	26
(4) 健康講座	27
(5) 国際政策学部講演会	28
5. 「授業開放講座のあり方及び見直しについて」検討結果報告書作成	29
IV. 地域研究部門	30
1. 地域研究部門事業の概要	30
2. 地域研究部門事業の実績と課題について	30
【地域研究部門の個別事業】	31
1. 研究の概要	31
2. プロジェクト研究報告	31
1) 「高齢者への見守りと地域連携の総合的研究Ⅱ」	32
2) 山梨県内在住外国人児童生徒の健全な育成のために 進路進学サイト作成プロジェクト	32
3) 地域資源を活かしたビジネス展開の可能性について －甲斐絹の伝承と発信のためのプログラム開発－	33
4) 高齢者の“サクセスフル・エイジング”実現に向けての基礎的研究 ～地域在住高齢者と若者(大学生)との異世代間交流を通して～	34
5) 研究名 多文化共生推進プロジェクト： 保健・医療・福祉における大学・地域・行政の連携に向けて	35
3. 共同研究報告	36
1) 地域資源を教育資源に ～地域文化・資源の継承・発展に関する教育活動支援の実施～	36
2) 山間過疎地域で暮らす独居・夫婦世帯高齢者の支援に関する研究 －後期高齢者の“安心感のある暮らし”に焦点をあてて－	37
4. 研究報告会の実施	38
V. 事務局	39
1. 運営委員会記録	39
2. 組織図・委員名簿	41
3. 地域研究交流センター委員一覧	42
資料	43
1. 年間の時系列記録	43
2. フライヤー等	48

地域研究交流センターは、2005年開学と同時に全教員が参加する組織として設置されました。そして「地域と向き合い、地域に開かれた大学」を具現化すべく、多くの地域貢献活動を推進してきました。山梨県立大学は、2010年に公立大学法人化を無事果たし、自主的運営のメリットを生かして、地域との活動を展開すべく努力してきました。活動のすべては、この年報で報告されていますが、今年度の特長的なものをいくつかご紹介いたします。

<「地（知）の拠点整備事業」（大学COC事業）>

今年、本学は、文部科学省の重点事業である「地（知）の拠点整備事業」（大学COC事業）に採用されました。この事業は、全国の大学の約半数にあたる319校が申請し、採択されたのはわずか52校でした。県内からわずか1大学という難関を突破しました。

申請事業名は、「課題解決プロセスと未来思考の対話による実践型カリキュラム構築—山梨の地域再生と活性化の拠点づくり—」です。題名と異なり、内容はシンプルです。現実の地域貢献活動を学生とともに実施すること。そしてそれを基に大学の教育方法を改革し、最終的に山梨県における知の拠点を目指すことです。

<地域研究の推進と地域への還元>

毎年、センターが「プロジェクト研究」と「共同研究」を学内募集しています。本年度は、プロジェクト研究5件と共同研究2件を採択し実施しました。3月25日には、研究報告会を開催し、その成果を発表いたしました。

また昨年度は、実施要項の見直しを行い、研究の運営方法の改善と質の向上を目指した「検証委員会」で選考評価表を試作しました。今年度より実際に使用し、その効果を検証していくこととなります。

<今後の課題>

開講3年目となった「授業開放講座」が過渡期にあります。昨年の科目数は、29科目開講（前年比-16件）、13名受講（前年比+4人）でした。開放講座数が減少している現状を受け、昨年本センターの生涯学習部門で原因等を調査しました。その結果、今年度より広報活動や申請方法の簡略化など、新たな対応策を実施して行く予定ですので、益々のご支援を賜ることができれば幸いです。

最後に、本センターの活動にご協力いただいたすべての方々に感謝すると共に、今後とも地域研究交流センターへのご関心、ご支援を切にお願い申し上げます。

（文責：吉田均）

# 交流・支援部門

## 1. 交流・支援部門事業の概要

### (1) 講師・委員等の応嘱

学外の団体等からの依頼により、本学教員が講演、研修等の講師を務めるほか委員等へ委嘱された。

### (2) 学外からの相談等への対応

学外団体主催行事への協力、協力名義提供、施設提供などに対応した。

### (3) 高校大学連携講座の実施

平成 18 年度から実施している城西高校との高大連携講座を継続実施した。

### (4) 教員の地域貢献活動への支援

教員の地域貢献活動への支援メニューを企画・実施した。

### (5) 学生による地域貢献活動への支援

「学生優秀地域プロジェクト」認定・支援の制度に基づき、3 件のプロジェクトを認定・支援したほか、「学生活動支援室」の活動として、学生の地域貢献活動を促すための情報提供を行った。

### (6) 大学周辺自治会との連携

2010 年度から開始し、3 年目になる大学周辺自治会との連携活動を継続して実施した。大学周辺自治会との情報交換会から、大学の研究力を活用した地域の行事へ学生や教員が参加・協力することへと発展している。

### (7) 池田地区総合防災訓練への参加・協力

地域自治会との情報交換を契機に依頼された事業として、池田地区総合防災において、看護学部の教員および学生が、救急救命・応急処置等についての講習・指導を行った。

### (8) 「池田地区健康まつり」への参加・協力

池田地区連合会からの依頼を受け、看護学部の教員と学生が 3 年連続で、「池田地区健康まつり」に参加・協力した。

### (9) 看護・福祉専門職支援

学習会や講演会等の企画を検討することを年度計画にあげたが、企画立案には至らなかった。

## 2. 交流・支援部門事業の実績と課題について

大学周辺自治会と、情報交換会、地域自治会への参加・協力などを継続している。本学の研究・教育の実績を生かして、地域や専門機関などと、足元の地域から地道に日常的に交流・支援を広げていく方向性をさらに学内全体で共有・展開していく。

## 【交流・支援部門の個別事業】

### 1. 講師・委員等の応嘱

本学教員は、学外の団体・自治体・学校等から依頼を受け、各種講師・委員等に応嘱している。平成24年度の応嘱状況を下の表に示す。これによれば、全学でのべ400件の応嘱があり、内訳は、講義・講演が224件、委員等が174件、その他が2件であった。学部別には、国際政策学部が31件、人間福祉学部が102件、看護学部が261件、職員等が6件であった。

なお、本報告における数値は平成26年3月24日までに地域研究交流センターが把握した情報に基づくものである。ここに示した数値は、大学に対し文書による派遣依頼がなされた案件、もしくは大学が人員選定等に関与した案件に限定されており、これ以外にも把握されていない案件が存在すると考えられる。

表1 平成25年度の講師・委員等応嘱状況

学部名	依頼内容名			総計
	講義・講演	委員等	その他	
国際政策	16	15	0	31
人間福祉	89	13	0	102
看護	113	146	2	261
職員等	6	0	0	6
総計	224	174	2	400

表2 平成25年度の講師・委員等応嘱状況の内訳：講義・講演

依頼者	国際政策	人間福祉	看護	職員等	総計
幼稚園・保育所	0	0	0	0	0
小中学校	0	0	0	0	0
高等学校	2	2	9	0	13
専門学校	0	0	0	0	0
大学・短期大学	8	6	18	0	32
県関係機関	4	13	26	0	43
市区町村	1	30	22	0	53
各種団体	0	32	18	4	54
医療機関・福祉機関等	0	1	20	0	21
省庁等	1	5	0	0	6
その他	0	0	0	2	2
総計	16	89	113	6	224

表3 平成25年度の講師・委員等応嘱状況の内訳：委員等

依頼者	国際政策	人間福祉	看護	職員等	総計
高等学校	1	2	0	0	3
大学・短期大学	0	0	0	0	0
県関係機関	8	8	92	0	108
市区町村	1	0	10	0	11
各種団体	2	1	23	0	26
医療機関・福祉機関等	0	0	21	0	21
省庁等	3	2	0	0	5
その他	0	0	0	0	0
総計	15	13	146	0	174

表4 平成25年度の講師・委員等応嘱状況の内訳：その他

依頼者	国際政策	人間福祉	看護	職員等	総計
小中学校	0	0	0	0	0
県関係機関	0	0	0	0	0
市区町村	0	0	0	0	0
各種団体	0	0	1	0	1
医療機関・福祉機関等	0	0	0	0	0
その他	0	0	1	0	1
総計	0	0	2	0	2

(文責：柊崎京子)

## 2. 学外からの相談等への対応

地域研究交流センターは、学外と大学を結ぶ窓口として活動しており、さまざまな依頼・相談・照会等に対応するほか、学外団体主催行事への協力、協力名義提供、施設提供などに対応している。本年度も各種活動への協力名義提供、施設提供を行った。

(文責：川池智子)

## 3. 高校大学連携講座の実施

「山梨県特色ある高校づくり支援事業」として、城西高校からの依頼を受け、平成18年度より実施している看護・福祉系進路希望者を対象とした「家庭看護・福祉」の科目の高校大学連携講座を、本年度も継続して実施した。看護学部8名、人間福祉学部6名(述べ7名)名、計14名(述べ15名)の教員の協力があった。教員名とテーマは以下のとおりである。

表 5 平成 25 年度「家庭看護・福祉」年間計画表(県立大学連携授業)

火曜日午後(13:45～14:35 14:40～15:30)

月日	担当先生	講義テーマ
4月16日	城西	科目の説明など
4月23日	城西	
4月30日	城西	短縮授業 普通救命講習
5月7日	城西	総体前短縮授業 普通救命講習
5月14日	神山裕美	連携と協働～グループの力を生かす～
5月21日	加藤 淳也	看護実践と解剖生理学
5月28日	吉澤 千登勢	いのちと倫理
6月4日	城西	定期試験
6月11日	城西	新体力テスト
6月18日	小山 尚美	「歳をとる」ってどういうこと?
6月25日	城西	学園祭前短縮授業
7月2日	城西	学園祭前短縮授業
7月9日	米田 昭子	慢性病は人の生活のしかたの現われ
7月16日	城西	三者懇談短縮授業
8月27日		
9月3日	須田 由紀	地域で生活する人々の安心を支える看護
9月10日		
9月17日		
9月24日	高野 牧子	「子育て支援」とは?
10月1日	城西	
10月8日	望月 経子	海外で働く看護職
10月15日	山中 達也	「聴く」ことの意味を考えてみよう
10月22日		
10月29日	坂本 玲子	思春期のメンタルヘルス
11月5日	柳田 正明	人間の行動の理解
11月12日	大久保 ひろ美	子どもの生きる力
11月19日		
11月26日	城西	定期試験
12月3日	柳田 正明	障害ってなんだろう
12月10日		



12月17日	堀井 啓幸	子どもの立場に立つとは
12月24日		
1月14日	平田 良江	新生児の観察と看護ケア
1月21日		
1月28日	城西	まとめ

(文責：川池智子)

#### 4. 教員の地域貢献活動への支援

##### (1) 教員への支援メニューの策定・周知

前年度に続き、教員が自主的におこなう地域貢献活動を促進するために、教員を対象とした支援メニューを周知、実施した。周知したメニューは以下の通りである。

##### (a) センター主催の「地域交流・貢献活動」としての採択・実施

本学教員が主体的に企画・実施する県内特定地域での交流事業を対象とする。

内容に応じて、旅費、消耗品費などを支援する。

##### (b) センター「支援事業」の認定・支援

センターの「支援事業」として認定し、報道機関への情報提供、センターのウェブサイトを通じた広報など、可能な範囲で支援する。

##### (c) センター「後援」等の名義使用

名義使用により、センターがその趣旨等に賛同している旨の対外的表示ができる。

教員が主体的に関与する事業のほか、学外団体から協力を依頼された事業で、本学の地域貢献として賛同・応援の意思表示をするにふさわしいものを対象とする。

##### (d) 学生ボランティアの募集協力

「学生活動支援室」を平成19年度に開設し、学生による地域貢献活動の推進を行っている。この「支援室」を通じ、本学での学生ボランティア参加者募集等に協力することができる。

##### (e) その他

上記以外の支援メニューについても、今後検討していく。具体的なご要望などがあれば相談を受け付ける。

(文責：柘崎京子)

#### 5. 学生による地域貢献活動への支援

##### (1) 「学生優秀地域プロジェクト」の認定・支援

「山梨県立大学地域研究交流センター『学生優秀地域プロジェクト』認定・支援制度 実施要項」を平成20年6月に定めた。これは、本学の学生又は学生団体が地域において実施する事業で、地域および本学に対してすぐれた貢献をしたものを認定し、本学学生による地域課題解決のための継続的な活動を推進することを目的としたものである。認定されたプロジェクトは、本学ウェブサイト公表するほか、センターが可能な支援を行う。

実施要項に基づき、平成25年度認定プロジェクトの選考を以下のプロセスで実施した。

### (a) 教職員からの推薦

実施要項では推薦の資格を有するのは本学教職員となっている。平成 25 年 12 月に教職員からの推薦を募った。その結果、3 件のプロジェクトが推薦された。

### (b) 選考委員会による選考

センター長が組織した選考委員会において選考をおこなった。選考委員会のメンバーは、小田切理事、吉田均教授、柗崎准教授、川池准教授、渡邊裕子准教授、平野准教授の 6 名であった。平成 26 年 1 月 22 日に選考委員会が開かれ、協議の結果、3 件のプロジェクトの認定が決定された。

### (c) 認定

認定式を平成 26 年 1 月 29 日 12:20～12:50 に飯田キャンパス A 館 6 階サテライト教室にて開催した。

表 6 平成 25 年度 学生優秀地域プロジェクト 認定一覧

番号	プロジェクト名	実施主体名
1	お年寄りとの地域交流活動～介護予防・いきがい活動への貢献～	MOTTAINAI (山梨県立大サークル・モッタイナイ)
2	明日の地域医療を切り開くプロジェクト	メディっこ
3	甲斐絹プロジェクトー甲斐絹のビジネス化・国際展開への取り組みー	黒羽ゼミナール及び合同会社飯田甲斐絹堂学生グループ

## (2) 「学生活動支援室」の活動

平成 19 年度より設置している「学生活動支援室」により、学内に設置した掲示板を通じて、大学・教員に寄せられる学生ボランティア募集などの情報の学生への情報発信をおこなった。

(文責：平野和彦)

## 6. 大学周辺自治会との連携

### (1) 地域自治会との懇談会

平成 22 年度から開始し、3 年目になる大学周辺自治会との連携活事業を継続して実施した。大学周辺自治会との情報交換会から、地域の行事へ学生や教員が参加・協力へと発展している。

平成 25 年度、地域自治会との懇談会の内容は下記のとおりである。

- ・日時：平成 25 年 7 月 8 日 (月) 16 時 30 分～17 時 20 分
- ・場所：飯田キャンパス中会議室
- ・出席者：岡部荒川自治会長代行、大久保長松寺北部自治会長、保坂長松寺南部自治会長  
伊藤学長、波木井理事、吉田地域研究交流センター長、柗崎交流支援部門長、渡邊委員  
渡邊池田事務室長、加藤総務課長、矢ノ下学務課リーダー

#### 1) 地元自治会の活動について

##### (a) 地田地区連合自治会 (長松寺南部自治会)

現在自治会では次の 4 つの事業に取り組んでいるとの説明があった。

- ① 行政との協力を図るうえでの窓口。ただし、情報過多の傾向があるため、取捨選択を

検討しなければならなくなりつつある。

- ② 防災のための備え。8月25日に行政、自治会と一緒に訓練を予定している。
- ③ 文化活動として10月19日、20日に文化祭を予定している。以前は本学の和太鼓部に出演してもらった。
- ④ 保健活動。保健計画推進協議会を立ち上げ、保健まつりを今年度は3月1日に実施する予定である。

#### (b) 荒川自治会

「広報誌を配る等の関係で、大学周辺に学生が居住している状況を情報提供してもらえないか」という申し出があった。

上記に関しては、個人情報になるため、個々の学生の居住情報を伝えることは難しい。ただし、現実には学生は自治会のお世話になっているので、「自治会で学生に伝えたい情報があれば大学を経由して伝えることは可能だと思うので、その際は連絡して欲しい。」ことを大学意見として伝えた。

#### (c) 池田地区連合自治会（長松寺南部自治会）長

安全・安心ボランティアを推進することが決定し、募集中である。学生にも呼びかけを行いたいという申し出があった。

### 2) 地域研究交流センターの本年度の地域貢献活動について

大学側からは下記の内容を伝えた。

- ・ 今年度も公開講座の実施を予定しており、随時チラシ等を送付させていただく。
- ・ 防災食の備蓄量は夜間人口を基礎に算定されていると思うが、日中に災害が発生した場合は大学等もある関係で夜間人口と昼間人口の差が大きいため、対応できないのではないかと危惧している。甲府市や県等と交渉する際は大学からも必要な情報提供を行う用意があるので、声をかけて欲しい。
- ・ センターの研究事業で地域自治会に協力をお願いしなければならないことがあるので、また改めて相談させていただく。
- ・ 例年行っている健康講座を、今年度も11月に実施予定である。
- ・ 10月に血圧測定等の授業（看護学部）への協力をお願いしたいと考えている。

### 3) その他

- ・ 最近不審者の目撃情報や、追いかける等の報告が大学に寄せられている。情報を共有する等の協力ができないかということをお大学側から伝えた。「甲府市役所に危機管理課という部署があり、そこに警察からも出向している。そちらにも相談したら良いのではないか。」という意見があった。
- ・ 配布資料は、議事次第、地域研究交流センターパンフレット、平成25年度観光講座チラシ、センター・ニューズレターNo. 17、No. 18であった。

### (2) 鶴巻台西自治会内における「鶴巻台西いこいの会」と学生の交流

山梨県立大サークルMOTTA INAIは、平成24年6月より、県立大学飯田キャンパス近隣（グラウンド南側）の鶴巻台西自治会の「鶴巻台西いこいの会」で、高齢者との交流事業を続けている。甲府市には高齢者が集まって交流する地域型サロンが109か所あり、「鶴巻台西いこいの会」もそのひとつである。平成25年は下記の活動を行った。

平成25年1月26日：「ほうとうパーティ」地域の方からほうとうづくりを教わる交流会

平成25年3月30日：「お花見会」高齢者からの誘いによるお花見交流会

平成 25 年 5 月 18 日：「みんなでいい汗かこう会」高齢者に配慮したレクリエーション交流会  
平成 25 年 6 月 29 日：「初夏よりあつく語ろう会」レク中心活動の反省から会話中心の交流会  
上記活動が地域の方々に評価される中で鶴巻台西自治会の方々の推薦により、平成 25 年年 10 月 18 日「甲府市いきいきサロンフォーラム 2013」（甲府市社会福祉協議会主催）で、甲府市総合市民会館において、鶴巻台西自治会の方々と共に交流活動を共に発表した。

（文責：柘崎京子）

## 7. 池田地区総合防災訓練への参加・協力

池田地区総合防災訓練への協力について、池田地区連合自治会より依頼があった。本件に関しては今年度で 3 回目の依頼となるが、担当者が池田地区連合自治会で行われた防災訓練の企画会議に参加し、綿密な打ち合わせを行った。また、地域住民用に「おぼえておこう 災害時の応急処置」、小学生用に「こどもにもできる応急処置」という自作の資料を用意し、当日は看護学部の教員と学生が参加した。

日時：平成 25 年 8 月 25 日（日）9:00～12:00

場所：池田小学校・西部市民センター・甲府西高等学校・甲府城西高等学校

協力者：教員（12 名）流石ゆり子・佐藤悦子・遠藤みどり・清水恵子・長坂香織・城戸口親史・井川由貴・森田祐代・須田由紀・山本奈央・中込洋美・渡邊裕子

学生（9 名）上田瑞貴・岡千尋・風間里穂・斉田朋子・坂本翔子・座光寺達・三井美穂・望月恵理（4 年生）・小野衣美（3 年生）

内容：救護訓練

- ・ 災害時救護所で活用できる救護（看護）の知識と技術
- ・ 小学生に向けた災害時の応急処置（大人とは別に開講）

池田地区の住民 556 名（小学生 23 名を含む）が参加し、池田地区の避難所として指定されている 4 ヶ所で、住民ひとり一人が災害時に落ち着いて行動できるように、実際の避難を想定した大規模な防災訓練が実施された。本学の教員および学生は、4 ヶ所の避難所に分かれて、身近にあるものを利用して住民ができる応急処置（骨折時の固定・気道確保・止血法等）について、参加者の協力を得ながら実践指導を行った。また、大人とは別の教室では、小学生を対象に（出血や熱傷時の処置等）について指導した。住民は真剣に参加し、熱心な質問したり実技を行ったりしていた。「普段の訓練では体験できない内容が盛り込まれていて大変参考になった」と多くの感謝の言葉をいただいた。

救護訓練の指導という立場での参加であったが、学生も教員も地域の住民としての自分の役割を考えることができ、同時に多くの大学周辺自治会住民との交流が持てる貴重な機会であった。



（文責：渡邊裕子）

## 8. 「池田地区健康まつり」への参加・協力

平成 26 年 3 月 2 日（日）に甲府市西部市民センターで開催された「池田地区健康まつり」に、教員と看護学部の学生が参加した。池田地区連合会からの依頼を受け、4 年連続での参加・協力となった。昨年度好評であった血圧測定・体組成測定・Functional Reach Test（姿勢反射機能と柔軟性の評価）に、今年度は血管年齢測定・足指力測定・敏捷性の測定を追加し、当日は教員指導の元に学生が測定を行った。また、健康相談コーナーを充実し、認知症予防の“脳トレ”体験コーナーも企画した。甲府市の地区担当保健師および西地域包括支援センターの看護師とも連携して、測定した結果を渡しながらか参加した地域住民の健康に関する相談に応じながら、自作のパンフレットを用いて転倒予防体操や生活習慣病の予防について指導や脳トレ体験を行ない、地域住民と学生および教員が交流を深めた。

来場者は 130 名以上で、「毎年、看護学部の学生が協力してくれるので健康まつりに活気がでる」「若い人と話をする機会が少ないので、学生と話せることがうれしい」などの言葉をいただいた。また血管年齢測定や認知症予防コーナーは大好評で、地域住民のニーズあった企画であった。同時に学生も、「今まで学んだ知識や技術を実際場で活かすことで、新たな課題を見出すことができた」と貴重な機会をいただいたことに感謝し、「昨年の授業（ヘルスアセスメント実践論）でご協力いただいた方にお目にかかることができ、またお話することができて楽しかった」と、地域の方々との交流を深めることに喜びを感じていた。

本事業への参加は“健康”を考えながら、学生・教員と地域の方々が直接交流を深めることができる貴重な機会である。「今後も是非継続して参加してほしい」という要望もいただき、看護学部が身近な存在として、地域の中に受け入れられていることに感謝し、今後もさらに地域との交流・連携を深めていきたいと考える。参加教員と学生は、以下の 29 名である。

教員（7 名）：流石ゆり子・渡邊輝美・森田祐代・萩原理恵子・阿佐美祐子・渡邊裕子（看護学部）  
柘崎京子（人間福祉学部）

学生（22 名）：座光寺達・芳賀恵美（4 年生）長田悠未・菅野結花・久保寺彩菜・三枝杏子・清水葵・土屋光瑠・宮下香鈴（3 年生）明里彩・小野寺海大・川口光・神宮司梓・田中ゆかり・長瀬綾恵・藤田沙也加・水科まどか・渡辺早紀（2 年生）小俣和歌菜・仲嶋千尋・中山佳歩・望月愛菜（1 年生）



(文責：渡邊裕子)

## 9. 看護・福祉専門職支援

山梨県立大学地域研究交流センターの地域研究部門における「特別研究事業」の中で、平成20年度に看護・福祉専門職支援コーディネーター部門が、看護学部と人間福祉学部との協働による看護職と介護職の連携に関する調査研究を実施した（調査研究の取り纏めは「看護職と介護職の連携に関する研究調査報告書」として発行）。この調査研究では、看護職と介護職との連携の実態や課題が把握された。

交流・支援部門は、看護・福祉専門職支援コーディネーターの役割を持つことになっているが、看護・福祉専門職支援は実施できていない現状がある。そのため、本年度は学習会や講演会等の企画を検討することを年度計画にあげた。過去の報告書からの情報把握や、交流・支援部門のメンバー内で意見交換を行い、看護・福祉専門職支援の方法と可能性を検討した。しかし、看護・福祉専門職支援に関する企画立案には至らなかったため、継続審議していくこととなった。

(文責：柘崎京子)

## 10. その他

障害児のサマーキャンプ資金を集めるために開催された「第16回山梨チャリティーラン2013」（2013年6月15日）に、資金援助は可能だがランナーの派遣ができない企業の代走者として本学学生36名が参加した。本学学生が代走として参加し8年目となり、これまでに計337名が参加した。そのため、これまでの協力をたたえ、大会実行委員会から本学が表彰され、感謝状を授与された。

(文責：柘崎京子)

# 情報発信部門

## 1. 情報発信部門事業の概要

### (1) 年報の発行

『2012年度山梨県立大学地域研究交流センター年報』を2013年5月31日付けで発行した。

### (2) 地域研究交流センターニューズレター「tobira」の発行

地域研究交流センターニューズレター「tobira」を、本学と地域を結ぶ機関紙として発行し、県内外の関係機関・団体等に配布した。2013年度は下記の通り発行した。

①第19号：2013年6月28日発行

②第20号：2013年9月20日発行

③第21号：2014年2月7日発行

### (3) ウェブサイトでの情報発信

ウェブサイトにおいて、センターの概要、生涯学習の案内、地域連携・支援の取り組み、地域研究、刊行物、活動記録等について情報発信した。

## 2. 情報発信部門事業の実績と課題について

ウェブサイト、ニューズレター、年報の媒体を用いて、地域研究交流センターの事業活動について学内外に情報発信を行った。こうした情報発信は、事業記録としても有効であり、大学の説明や自己点検評価等にも活用されている。

2013年度も、前年度と同様の体制のもとで、継続的に情報発信活動を行った。ニューズレターと年報については、おおむね予定通りのスケジュールで発行され、安定的に情報発信することができている。今後は、現在の紙面構成も見直しつつ、さらに内容の充実を図っていく必要がある。ウェブサイトについては、個々の取り組みの活動記録をそのつど掲載するように改善したが、全体としてはイベント告知のレベルにとどまっており、改善の余地がある。さらに的確で効果的な情報発信のためには、センター全体のビジョンに基づきつつ、大学全体の広報活動との関係もふまえて、戦略的な情報発信を進めていく必要がある。

## 【情報発信部門の個別事業】

### 1. 年報の発行

『2012 年度山梨県立大学地域研究交流センター年報』を 2013 年 5 月 31 日付けで発行した。この『年報』は、地域研究交流センターの事業実績を年度ごとにまとめたもので、地域研究交流センター説明資料や自己点検評価等の資料として活用されている。2009 年度までは年度末に年報を発行してきたが、2010 年度からは次年度の 5 月に発行時期を変更した。『2012 年度年報』は、発行予定からは遅れたものの、2013 年 5 月に発行することができた。

(文責：藤谷秀)

### 2. 地域研究交流センターニューズレター「tobira」の発行

地域研究交流センターニューズレター「tobira」は、本学と地域を結ぶ機関紙であり、本学の教員や学生よる地域貢献活動、地域住民・関係機関・自治体等との連携事業を広く県内外に情報発信する役割を持っている。現在は、ほぼ以下の紙面構成で発行している。

- \* 「特集」：本学と地域をつなぐホットな話題
- \* 「地域とつながる」：本学の地域連携・地域貢献事業の紹介
- \* 「VOICE」：学外者へのインタビューによる本学の取り組みの紹介
- \* 「私たちの一歩!」：学生による地域貢献活動の紹介
- \* 「講座・イベントのお知らせ」：講座・イベント等の告知

2010 年度からは(第 11 号以降)、「tobira」という誌名のもと、デザインと内容を一新し、取材・執筆・編集の多くの部分を学外編集者に委託することで内容の充実を図った。2011 年度からは(第 13 号以降)、年 3 回発行し(2010 年度までは年 2 回)、よりきめ細かい情報発信を行っている。

2013 年度も年度中に 3 回(19~21 号)発行した。発行部数は各回 4000 部で、このうち 3010 部を関係先 565 箇所へ発送した。内訳は、県関係(47 箇所)、市町村(28 箇所)、文化施設(55 箇所)、県内大学(10 箇所)、実習先(病院・福祉機関・幼稚園・保育所等、232 箇所)、企業(14 箇所)、県内非営利活動法人(54 箇所)、県内高校(53 箇所)、その他(72 箇所)である。

各号の概要は以下の通りである。

#### (1) ニューズレター「tobira」第 19 号(2013 年 6 月 28 日発行)

- \* 「特集」：対談「すべての人にとって、学びの場」 山梨県立中央病院総合周産期母子医療センターの育児サークル「ふたごの会」(ふたごをもつご両親と病院が連携)の活動について、その活動にかかわっている看護師長の方々、本学教員、学生にお話を伺った。
- \* 「地域とつながる」：甲府城西高校との高大連携 甲府城西高校との高大連携授業に関わっている看護学部の小林たつ子教授、人間福祉学部の吉田雅彦学部長、またこれからの高大連携について五味武彦理事にお話を伺った。
- \* 「VOICE」：山梨中央銀行と県立大学の包括連携協定 連携協定にもとづく取組や山梨中央銀行の地域貢献活動について、銀行の担当者の方々にお話を伺った。
- \* 「私たちの一歩!」：震災ボランティア県大生の会 2011 年の東日本大震災を機に立ち上げた「震災ボランティア県大生の会」の活動を紹介した。



\* 「講座・イベントのお知らせ」: 7月以降に開催予定の講座・イベントの告知を行った。

## (2) ニュースレター「tobira」第20号(2013年9月20日発行)

\* 「特集」: SCOPE(総務省戦略的情報通信研究開発推進事業)による遠隔学習システム(edutab)への取り組み 国際政策学部の八代一浩准教授が中心となって取り組んでいる遠隔学習システム開発について、このシステムを使った授業を行っている小学校、本学と連携してシステム開発に取り組んでいる地域のIT企業を訪問し、お話を伺った。

\* 「地域とつながる」: 県立大学オペレッタ 甲府市近隣の幼稚園・保育所の子どもたちを招いて行われた人間形成学科学生のオペレッタ公演を紹介した。

\* 「VOICE」: 道志村地域文化遺産活用地域活性化事業 道志村と本学が連携して取り組んでいる観光振興・地域活性化事業について、道志村の佐藤光男教育長にお話を伺った。

\* 「私たちの一歩!」: ヘルスプロモーションクラブ 中高生を対象に性に関するピアカウンセリングを行っている「ヘルスプロモーションクラブ」の活動を紹介した。

\* 「講座・イベントのお知らせ」: 10月以降に開催予定の講座・イベント等の告知を行った。

## (3) ニュースレター「tobira」第21号(2014年2月7日発行)

\* 「特集」: 当事者参加授業「地域の人との交流が学びの場となる」 国際政策・人間福祉・看護学部でそれぞれ取り組まれている当事者参加授業を取り上げ、各学部担当教員の座談会を行って、当事者参加授業の取り組み・意義・課題等についてお話を伺った。

\* 「VOICE」: 池田地区自治会連合会の防災への取り組み 池田地区自治会の防災への取り組みと本学(看護学部)との連携について、自治会連合会会長の保坂求さんにお話を伺った。

\* 「私たちの一歩!」: 国際ボランティアクラブ(IVC) 日本語を母語としない子どもたちへの学習支援等を行っている「国際ボランティアクラブ(IVC)」の活動を紹介した。

\* 「講座・イベントのお知らせ」: 2月以降に開催予定の講座・イベント、来年度の授業開放講座の告知を行った。

(文責: 藤谷秀)

## 3. ウェブサイトでの情報発信

本学のウェブサイト内に、地域研究交流センターのサイトを置き、センターの概要、生涯学習の案内、地域連携・支援の取り組み、地域研究、刊行物(年報・報告書・ニュースレター等)、活動記録等、各種の情報発信を行っている。特に、生涯学習部門が実施する講座・研修等のイベントに関する情報は、随時タイムリーな情報発信となっている。また、センターが中心となって行った取り組み(講座・イベント・学生優秀地域プロジェクト等)を、そのつど「活動記録」として情報発信している。

(文責: 藤谷秀)

# 生涯学習部門

## 1. 生涯学習部門事業の概要

平成 24 年度は、以下の講座を実施した。

### (1) センター主催事業

地域の方々を対象に大学の教育・研究成果発表、及び県民の方々の知的関心に応えるための講演会や成果報告会を企画・開催した。

- ① 春季総合講座
- ② 観光講座 (5 回)

### (2) 県民コミュニティカレッジ事業

山梨県大学コンソーシアムとの提携により、広域ベース講座として、学生主体で写真を通じた地域発見と、地域活動の情報交換を進め成果発表する 2 種類のワークショップへの協力と、地域ベース講座として、大学の研究成果を分かりやすく伝える講演会の企画運営を行った。

- ① 広域ベース講座 (4 回)
- ② 地域ベース講座 (4 回)

### (3) 地域連携講座事業

地方自治体の委託を受けて、本学教員が各種講座を企画・実施した。

- ① 日本語日本文化講座
- ② 幼児教育センター月例別講座 (人間福祉学部) (18 回)
- ③ 幼児教育センター月例別講座 (看護学部) (15 回)
- ④ 子育て食育講座
- ⑤ 子育て支援リーダーステップアップ講座 (9 回)

### (4) 学部共催講座事業

各学部学科の特性をいかした講演会・講座・フォーラム・イベント等を担当教員が企画し開催した。

- ① 人間福祉学部講演会
- ② ソーシャルワークセミナー
- ③ 子育て支援フォーラム
- ④ 看護学部：健康講座
- ⑤ 国際政策学部講演会

### (5) 「授業開放講座の在り方及び見直しについて」の検討結果報告書の提出

## 2. 生涯学習部門事業の実績と課題について

本年度も 4 区分 16 種類の事業が企画実施され、どの事業も昨年以上の多くの参加者を得て参加者からも多くの良い評価を得ることができた。これも、生涯学習部門委員をはじめ、各学部のご担当の方々の取り組みのおかげである。多忙な授業や研究に加え、地域貢献のためにそれらの成果を惜しみなく提供して下さった教員の皆様、職員の皆様に感謝いたします。

今後の課題としては、事業の回数や種類が多く、一部の教員の方々には多大な負担をおかけする面もある。目標や目的に合わせて事業の整理が必要ではないかと考える半面、教員の自由な発想と企画を妨げにならないか、と悩ましい面もある。また、開催日の調整が不十分で 1 日で複数企画が重なってしまったこともあったので、これは次年度への改善課題としたい。

## 【生涯学習部門の個別事業】

### 1. 地域研究交流センター主催事業

#### (1) 春季総合講座

- ①テーマ：「知から生まれる遊び、楽しみ、癒し」
- ②日時：平成25年6月8日（土） 13:30～16:00
- ③場所：山梨県立大学 飯田キャンパス 講堂
- ④趣旨：言葉でなくても伝わる、言葉がなくても感じる、そんな経験を誰ももちますが、今回はノンバーバル・コミュニケーションという言葉を用いないコミュニケーション方法をテーマに、演劇、音楽、アロマセラピーの専門家が、それぞれの「知」から得られる「遊び」、「楽しみ」、「癒し」について紹介しました。
- ⑤内容：遊び 「舞台で遊ぶ 舞台から伝える」伊藤 ゆかり 准教授（国際政策学部）  
楽しみ「音の楽しみ—EXILEの中のショパン—」村木 洋子 准教授（人間福祉学部）  
癒し「かおりと癒し」前澤 美代子 講師（看護学部）
- ⑥参加者：56名  
88%が「今回はじめて参加」で、35%が10代以下の参加者であった。今回はオープンキャンパス前に高校生等を対象に大学を知ってもらう機会として企画したので、従来の企画より10代参加が最も多かった。

（文責：神山裕美）

#### (2) 観光講座

- ①テーマ：「南アルプスの自然と文化」
- ②趣旨：富士山が平成25年6月に世界遺産に正式登録になった。これ以外に山梨県関係では、実は南アルプスの世界自然遺産登録に向けた取り組みが行政・研究者等によって組織的に開始され、既に数年が経過している。こうした取り組みがあることも、また世界遺産登録に値する学術的背景も、南アルプスについては一般に殆ど知られていない。この事情により、本年度の講座のテーマとして、観光資源としても価値のある南アルプスの自然と文化を取り上げ、一般周知を図った。
- ③対象：一般県民
- ④講師：塩沢久仙（芦安山岳館長）・新津健（山梨県埋蔵文化財センター元所長）・輿水達司（山梨県立大学特任教授）・斎藤秀樹（南アルプス市教育委員会）・大久保栄治（山梨県植物研究会）・中村仁（環境省南アルプス自然保護官事務所）・北原正彦（日本環境動物昆虫学会）・村山力（やまなし野鳥の会）・関間俊明（韮崎市教育委員会）・深沢健三（日本山岳会）
- ⑤日時：
  - 第一回：平成25年7月21日（午後1時半～午後4時半）
  - 第二回：平成25年8月11日（午後1時半～午後4時半）
  - 第三回：平成25年9月1日（午後1時半～午後4時半）
  - 第四回：平成25年9月8日（午後1時半～午後4時半）
  - 第五回：平成25年9月22日（午後1時半～午後4時半）

⑥場所：山梨県立大学飯田キャンパス講堂

⑦実施状況：

初回の7月21日から9月22日まで全5回を実施した。5回の講演会には、延べ418名の参加を数え、平均で84名であった。これらの参加状況を見ると、多くは一般県民である。しかも、特に動員を促すことなく多くの参加者のあった背景には、昨年度実施の「富士山の世界遺産講座」と同様に、本年度の「南アルプス講座」の場合にも、科学的に価値の高い自然・文化が我々の身近にあることが、強い関心を抱かせたのかも知れない。

なお、昨年同様に今回の講演内容も報告書として本年度中に完成予定で作業を進め、同時に地域研究交流センターホームページには、このPDF版をアップする計画である。今回の観光講座につき、多くの県民がこの企画に関心を持たれ、山梨県立大学に足を運んで頂いた経緯から、今後においてこの企画が県内観光推進の面からも何某かの新しい貢献になればと願って、実施状況の報告としたい。

(文責 興水達司)

## 2. 県民コミュニティカレッジ

### (1) 広域ベース講座(4回)

①目的：県内大学の学生による様々な地域活動に焦点を当て、活動状況を報告し情報共有を行うとともに、今後の自治体をはじめとした地域との新たな連携・協働の可能性について、参加者とともに考えることを目的に開催された。

②対象：これまで地域で活動をされてきた方や地域活動に関心のある方、また、自治体、事業者、大学関係者の皆様、さらには、県内大学に関心のある高校生やその保護者等。

③内容

1)【ワークショップ1】 「まち」～写真を通して見つける「私の甲府」～(計27名)

平成25年12月1日(日)13:30～17:00 防災新館1階(18名)

平成26年1月25日(土)10:00～13:00 地域研究交流センター室(17名)

\*2回のワークショップをふまえ、「私の甲府」のマッピングとシェアリングを行い、グループ別に若者による「私たちの甲府」の展示と発表を行った。

2)【ワークショップ2】

「地域コミュニティ」～地域活動の情報共有から今後の連携に向けて～(計53名)

平成25年12月8日(日)13:30～17:00 防災新館1階(48名)

\*大学コンソーシアムの教員・本学MOTTAINAIサークル学生を含めた県内大学生や高校生と共に、ワークショップ運営・参加・発表に協力した。

3)【やまなし地域協働フォーラム「若者による多様な地域活動の現状と可能性」】

平成26年2月9日(日)13:00～16:30 防災新館1階山梨プラザオープンスクエア(5名)

\*基調講演とワークショップ1・2の成果が発表された。

(文責：神山裕美)

## (2) 地域ベース講座(4回)「知ってるようで知らないこと」

①テーマ:「知ってるようで、知らないこと」

②趣旨:日常生活や時事ニュース等でよく聞く言葉や事柄について、各専門分野の講師より話をしていただいた。

③時間: 各回 14:00~15:30

④内容

第1回 平成25年12月7日(土)『私』を大切にすること

講師:山梨県立大学 人間福祉学部准教授 山中 達也 (参加者47名)

第2回 平成25年12月14日(土)「家庭の電気を何かからつくる?ーもし電源を選べたらー」

講師:山梨県立大学 国際政策学部准教授 森田 玉雪 (参加者19名)

第3回 平成26年1月11日(土)「生活習慣病について・・・お腹の脂肪って本当に悪者なの?」

講師:山梨県立大学 看護学部准教授 加藤 淳也 (参加者35名)

第4回 平成26年1月25日(土)「音楽的母語とは?ー子どもはことばのひびきをどのように感じているのだろうー」講師:山梨県立大学人間福祉学部特任教授 沢登英美子(参加者14名)(5)

場所:第1回・第2回・第3回:サテライト教室(A館6階) 第4回:音楽室

(文責:神山裕美)

## 3. 地域連携講座

### (1) 日本語・日本文化講座

①目的:甲府市内在住外国人のためのレベル別日本語教室(甲府市共催)

②日時:平成25年6月~平成26年2月までの毎週日曜日 13:00~15:00

③場所:山梨県立大学飯田キャンパス サテライト教室、研修室(一部学外)

④内容:会話1、会話2、会話3、文字クラス

七夕講座、もちつき

⑤参加者:会話1 36名 会話2 56名 会話3 68名 文字クラス 24名

日本文化講座「もちつき」 43名

国籍 台湾、タイ、シンガポール、中国、ボリビア、インド、フィリピン、ベトナム、アメリカ、カナダ、インドネシア(11か国)

(文責:安藤淑子)

### (2) 幼児教育センター一月齢別講座(人間福祉学部)

人間福祉学部では1歳3ヶ月~2歳児未満児・2歳児コースを担当した。場所は甲府市の中央部幼児教育センター、北部幼児教育センター、中道アネシス幼児教育センターの3か所で、全18回の講座を行った。(表2参照)

内容は、教員が講師を務める講座と、学生たちが参加する交流企画の大きく2つのタイプに分かれる。教員が講師を務める講座では、それぞれの専門性を活かし、研究等で得た知見をわかりやすく、親しみやすくお伝えするよう心がけている。様々な情報や体験の共有から、日常生活の中での楽しい子育てのヒントを見出していただければと願っている。もうひとつの学生たちが参

加する交流企画では、毎年、1年生は自作の遊具を持ち込み、初めての子育て支援活動に取り組んでいる。また2年生は劇発表を中心に、1時間の子育て支援活動を企画している。学生たちは試行錯誤を繰り返しながら事前準備をして当日に臨んでいるが、現場での子どもたちの反応は予想外なこともあり、そんな実際の子どもの様子から多くのことを学び、保育者になる責任ややりがいを感じているようである。

今後も子育て支援活動に対して教員も学生も積極的に関わり、少しでも地域の方々のお力になることができれば幸いである。



写真：自作のおもちゃで遊ぶ子どもの様子から学ぶ学生たち（2歳児 第2期 「一緒に遊ぼう」 中央部）

### 平成24年度甲府市幼児教育センター 月齢別講座一覧（人間福祉学部担当）

#### ●1歳3か月～2歳未満児（金曜日 10:30～11:30）

日程	中央部（金曜日）		日程	北部（金曜日）		日程	中道アネシス（金曜日）	
	内容	講師名		内容	講師名		内容	講師名
第1期 6月28日	親子でふれあい表現あそび	高野牧子	第1期 6月28日	ようこそ宇宙船地球号へ：国際人への第一歩	山田千明	第1期 7月5日	不思議の国のこどもたち：こどものこころの世界を覗く	多田幸子
第2期 10月25日	音楽とコミュニケーション	村木洋子	第2期 11月8日	不思議の国のこどもたち：こどものこころの世界を覗く	多田幸子	第2期 11月1日	音楽とコミュニケーション	村木洋子
第3期 1月24日	親子で手遊び	樋口しずか	第3期 2月7日	手を使った造形遊び	古屋祥子	第3期 1月24日	親子でふれあい表現あそび	高野牧子

#### ●2歳児（水曜日 10:30～11:30）

日程	中央部（水曜日）		日程	北部（水曜日）	
	内容	講師名		内容	講師名
第1期	6月26日	親子で手遊び	第1期 7月10日	子どもの安全	堀井啓幸
	7月3日	自立を促す脳を育てよう			
第2期	10月23日	一緒にクッキング！（家庭でできる食育）	第2期 11月6日	一緒に遊ぼう（ダンボールで作ったいろいろの道具）	学生・引率（堀井啓幸・古屋祥子）
	11月6日	一緒に遊ぼう（ダンボールで作ったいろいろの道具）			
第3期	1月22日	劇遊び発表会	第3期 1月22日	劇遊び発表会	学生・引率（古屋祥子・村木洋子）
	1月29日	親子でふれあい表現遊び			

（文責：古屋祥子）

### (3) 幼児教育センター一月齢別講座(看護学部)

①実施状況：「育児の気がかり」をテーマとした講座も今年度で7年目となる。3ヶ月～8ヶ月未満児のお母様を対象とした講座と8ヶ月～1歳3ヶ月未満児のお母様対象の講座を小児看護学領域4名の教員で担当した(表参照)。

会場であるお部屋の扉を開けると、お母様方や子どもたちがお互いの存在を確認し合い交流できるような円形状に座っており、和やかな雰囲気が伝わってくる。愛くるしい瞳でほほ笑む子どもたちとわが子の姿を優しく見守るお母様方と一緒に座り、講座がスタートする。

はじめての子育てに日々奮闘しているお母様や第2、3子のお母様から語られる育児の悩み事として、離乳食の進め方や夜泣きや日中の睡眠時間といった日常生活の世話の方法や、体重増加や近所の子どもに比べてお座りが遅いといった発育・発達に関する内容が出される。そして、短い時間の中でお互いに情報を共有し合う中で安心感を得ていくお母様方に、「育児の方法にも色々あって良いこと」そして、「どうしよう? どうしていますか? と気軽に声をかけ合う育児仲間の“和”を大切にしたい」ことを伝えている。

親こそ育児のエキスパートとなり得る存在であることを忘れず、「本やメディアでは得られない活きた知識・情報を得たい」という本講座に寄せられたニーズをふまえた育児支援に努めていきたい。



#### ●3～8カ月未満児 (木曜日 10:30～11:30)

日程		中央部		日程		北部		日程		中道アネシス	
第1期	7月4日	育児の気がかり	大久保ひろ美	第1期	7月4日	育児の気がかり	茂手木明美	第1期	6月27日	育児の気がかり	茂手木明美
第2期	11月14日	育児の気がかり	大久保ひろ美	第2期	10月31日	育児の気がかり	茂手木明美	第2期	11月7日	育児の気がかり	井上みゆき
第3期	2月6日	育児の気がかり	大久保ひろ美	第3期	1月30日	育児の気がかり	茂手木明美	第3期	2月13日	育児の気がかり	大久保ひろ美

#### ●8～1歳3カ月未満児 (火曜日 10:30～11:30)

日程		中央部		日程		北部	
第1期	6月25日	育児の気がかり	井上みゆき	第1期	6月25日	育児の気がかり	田淵 和子
第2期	10月22日	育児の気がかり	井上みゆき	第2期	10月29日	育児の気がかり	田淵 和子
第3期	2月18日	育児の気がかり	井上みゆき	第3期	2月4日	育児の気がかり	田淵 和子

(文責：大久保ひろ美)

## (4) 第4回子育て食育講座

- ①テーマ：野菜たっぷり！夏休みの簡単ランチメニュー
- ②趣旨：講義・ワークショップ・調理実習を通して、家庭で過ごす夏休み中の、子どもと家族の望ましい食事（とくに、季節の野菜をたっぷり摂る工夫）について学ぶ。
- ③対象：進徳幼稚園 PTA（幼稚園児保護者）15名
- ④講師：鳥居美佳子（人間福祉学部人間形成学科）
- ⑤日時：2013年7月5日（金）10：00～12：30
- ⑥場所：山梨県立大学調理実習室
- ⑦実施状況

### 1) 調理実習・ワークショップの様子

オリエンテーションの後、5つのグループに分かれ、7品を分担して調理した。すべての料理を試食できるように配分し、グループで会食しながら、食事に関する情報交換を行った。テーマに関連して、「夏バテ予防の食事」について、資料を配布し、講義を行った。

### 2) 受講アンケート結果より（感想・自由記述）

- ・ 野菜のうまみが十分に味わえる献立で子どもにもたっぷり野菜が摂れる内容でした（多数）。
- ・ 味付けに関して、塩とオリーブオイルしか使用していないのにもかかわらず、とても美味しく、どれも十分に感じられました。家でも実践してみます。
- ・ 野菜をあまり食べないので、今回教えて頂いた料理を活用したいと思います。どれも野菜の味が楽しめて美味しかったです。
- ・ 初めての参加でしたが、内容もとても良くて、また参加したいと思います。とても楽しかったです。
- ・ いつも参加させていただいております。毎回いただくメニューはうちの定番料理になっているものもあります。まんねりメニューに新しい風をふきこむいい機会となって、作る私自身も料理をする楽しみがふえます。
- ・ 班はくじ引き決めて頂いたので、他のお母さんとお話しができて楽しかったです。うちは年少なので年長さんのママさんのお話が色々聞けてよかったです。

### ⑧まとめ

毎回、PTAの研修担当者と一緒に企画している。今回は、昨年度いただいたご要望の中からテーマを決定した。本講座は、普段、あまり交流のない人との交流や、参加者同士の家庭での食生活に関する情報共有の機会にもなっているようである。今後は、よりよい情報共有の場になるよう、講座の関連テーマについて、ディスカッションの時間を取り入れることも検討したい。

（文責：鳥居美佳子）

## (5) 子育て支援リーダーステップアップ講座

- ①趣旨：平成22年度～24年度に実施した「子育て支援リーダー養成講座」の上級編として、家庭教育・子育てにおける喫緊の課題について講義と実技演習を主体とした学びにより、子育て支援者の資質向上を図り、支援活動を積極的に推進できる人材を養成する。
- ②主催：山梨県教育委員会社会教育課  
実施機関：山梨県立大学（人間福祉学部人間形成学科）



共催：山梨県立大学地域研究交流センター

連携：山梨県教育事務所（中北、富士・東部、峡南）

③会場：本学サテライト教室、講堂ほか

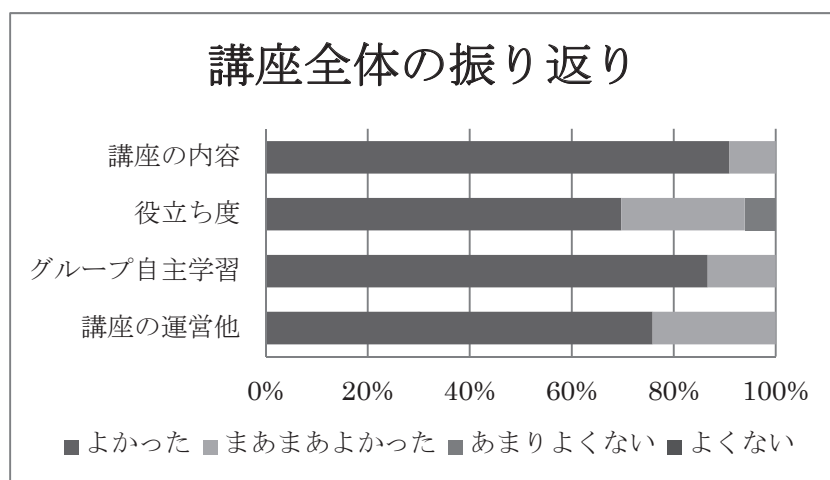
④運営：高野牧子教授・池田政子特任教授の企画、コーディネートにより実施。社会教育課及び教育事務所担当者は広報、会場準備、毎回の受講者評価集計などの事務およびグループ研究へのサポートに協力。

⑤プログラム・日程（別表参照）：毎回、講義、ワークショップ、グループ討論など多様な方法により学習を進めた。ステップアップのために「グループ研究」を導入し、地域を基準に編成された7グループが自主的にテーマを設定して、課題を定め学習・研究を行い、その成果を発表した。「山梨県内全市町村の一時預かり事業とファミリーサポート事業の調査」「子どもの自立に向けた支援・家庭におけるプログラム おてつだい」「子育てワンポイントアドバイス ～引き出しを増やそう～」などのテーマで、資料収集、調査・分析・考察、それに基づく実践、成果物の作成と活用、研究の評価などを行い、最終回に概要の発表を行った。

⑥受講者及び修了者：40名の受講者のうち、基準により38名に修了証を授与した。受講者は幼稚園教諭、保育士、子育て支援センタースタッフ、ファミリーサポートセンタースタッフおよび協力員、放課後児童クラブスタッフ、放課後子ども教室スタッフ、児童厚生員、つどいの広場スタッフ、市町村子育て支援担当者、母子自立相談員、保健師など。

⑦受講者の評価・感想

1) 講座全体の評価



\*「役立ち度」について「あまり役立たない」と回答した2名は、直接的な支援の場にはいない受講生で、「まだ実際に支援の場におらず自分が役立っていない」、「(自分の立場では)すぐに役立つというものではない」との理由であった。

<別表> SR：サテライト教室 WS：ワークショップ GW：グループワーク

回	日時・会場	内 容	講師（所属）
1	7月1日 (月) SR	開講式・オリエンテーション テーマ「自分の課題を見つめる」 講義とGW「子育て支援の現在と私たちの課題」	池田政子（県立大） *
2	7月8日 (月) SR	テーマ「家庭教育支援の技術をみがく ～やまなし親学習プログラムの実践に向けて」 WS「ファシリテータースキル・アップ」 GW「やってみよう！ わいわい子育て・親育ち」 グループ学習①	高野牧子（県立大） * *
3	7月26日 (金) SR	テーマ「DVについて学ぶ：家族支援のために」 講演「DVについての理解を深める」 講演「子どもの育つ背景としてのDV：支援の現場から」 グループ学習②	伏見正江（県立大） 富士池昌代（女性相談 所相談員） *
4	8月4日 (日) 講堂	テーマ「家族の今」 演奏と音楽遊びWS「子育て支援と音楽 ～楽しむ・ 伝える・つなぐ」 受講者交流会 シンポジウム「家族の今と私たちの実践」 渡辺聖香（NPO 法人アンファンネット顧問） 遠藤京子（NPO 法人みんなの広場市川三郷理事長） 杉山浩子（韮崎市心身障碍児(者)父母の会会長） 私の子育て支援紹介(受講者交流)	村木洋子（県立大） * 進行 池田政子（県立大） *
5	8月27日 (火) SR	テーマ「発達支援障がいについて学ぶ」 講演とWS「発達障害の子どもと親への支援 ～寄り 添い、つなぐ具体的方法～」 グループ学習③	星山麻木（明星大学教 授） *
6・7	8月～9月	グループ自主学習④⑤	*
8	9月20日 (金) SR	テーマ「児童虐待について学ぶ」 講演「子どもを守る ～被虐待児をめぐって」 グループ学習⑥	新津朱美（中央児童相 談所児童虐待対策幹） *
9	10月7日 (月) 講堂	テーマ「これからの支援に向けて」 講演「子育て支援のこれから ～支援とは何か～」 グループ学習発表会 閉講式	柏女靈峰（淑徳大学教 授） *

\* 進行、アドバイス等は毎回高野牧子・池田政子及び各教育事務所職員、社会教育課担当者で行った。

## 2) 受講生のコメント (抜粋)

A：講座の内容について

○第1回目の講座で、自分の課題を振り返る機会をいただき、後の講座を漫然と受講する事を阻止する原動力となった。○初めての受講で、様々な市町村の子育て支援者と目標を共有して受講し、知識を深める事ができた。○どの回も新たな知識を得るものとなり、毎回積極的な参加ができとても良かった。講座修了で終わらず、続けて学びたい。○講義の後に皆さんの感想も聞かせて頂くことで、自分の理解とは違った捉え方、見方があり、それがプラスになって今まで以上の興味・関心を持って参加することができた。同職のみでなく、普段関わることの少ない方々とも話をする事ができ、皆がどのように今の子育て支援を捉えているのか幅広く教えて頂くことができ、とても勉強になった。○支援する上で必要不可欠なことばかりで、自分自身のスキルアップになった。○毎日忙しく仕事をし、ボランティアを続けているが、県立大の講座に通うことでリフレッシュし、前向きな気持ちとなった。



B：講座の内容の役立ち度について

○山梨県の子育て支援者の結束を高められ、お互いの意識を高められることがよい。○知識で得た情報を職場やサークルで共有し、保護者に伝えることができた。○全て役だった。改善の必要はない。難しかった面もあったが、研究はがんばった。達成感あり！！●現場は様々なので、1日だけ2コースから選択してじっくり勉強コースをつくってもよいのでは？



C：グループ研究について

○1つのテーマで研究することにより、悩みを共有し今後の支援に向けて様々な情報交換ができた。○「研究」ときいただけでゾッとしたが結果的にはとてもよい経験をした。難しい事に挑んだ時の達成感は大きく、本当にステップアップできたと実感できた。他グループの発表も大変参考になった。○最初は分不相応では？と心配だったが、心強いメンバーと、事務所の先生などに協力いただき、大きなテーマに取り組み予想以上に成果が得られたことで達成感を味わうことができた。○課題、テーマ設定、資料集め等すごく大変で正直辛かったです、その辛さもグループのメンバーと共有し、情報交換ができ、様々なジャンルの方と交流することができよかった。○同じ地域の支援者が集まり、情報共有をし、交流を深めることにより横のつながりができた。短い時間で大変だったが、学習で終わらず、次につながる資料を残すことが出来てよかった。○前回の講座より、さらに勉強になった。リーダーのもと集中して大変良い結果を出すことができた。メンバーも協力してチームワーク良く楽しくでき、満足できる結果だった。●もう少し時間をとっていただければより深められたと思う。



#### D：講座の運営について

○前回の講座同様、運営がとても良くありがたく思う。今後、出会えた受講生との繋がりをもつ機会を作っていたら嬉しい。共感、共有、そして何かが始まるかもしれない。○教育事務所の先生にとってもお世話になりました。今後も地域の多くの方に子育て支援を理解して頂き協力して頂けるように、若い世代のボランティアを育てていきたいと思うので、講座を続けていただきたいと思う。○モチベーションの高い仲間と一緒に学べたことは自身の力になり、毎週参加が楽しく実りある講座だった。ぜひ、横のつながりを大切に、運営に関わった先生方とも今後も引き続きアドバイスを頂けたらありがたく思う。日程も参加しやすく、県内でこのような講座を受けられたことはとても自信につながった。



#### ⑧学習成果とその活用についての事後調査結果

講座終了後の平成26年1月～2月に講座終了生37名及び修了生の所属する14市町村に対しアンケート調査を実施した。回収率は修了生(29名)78.4%、市町村100%。

##### 1) 修了生の活動及び市町村での活用

回答した修了生29名中28名が現在活動中(1名は退職)、14市町村中13市町村で修了生を活用しており(1市は修了生退職)、学習が地域に還元されているといえる。

##### 2) 社会教育課担当者のまとめ

ほとんどの修了生が、所属先の市町村において子育て支援活動を実施しており、支援活動の企画・運営にあたるなどリーダー的な役割を果たしている。修了生の所属する全市町村において終了生を活用しており、今後も継続して活用する予定である。

本講座の内容は修了生が活動する上で大いに役立っている。特に相談業務、支援する親子とのコミュニケーション活動、支援者同士のネットワーク形成や連携活動、支援事業の企画・運営、子育て支援に関わる知識や情報の獲得などの面で有効であった。

最新の知識や技能を学べる子育て支援者養成事業の継続を望む声や、講座終了後の継続的な交流の場を望む声が多い。また、すぐに現場の支援活動に活かせる実践的な内容や27年度以降の新制度に対応した内容を望む意見もある。

(文責：池田政子・高野牧子)

## 4. 学部共催講座

### (1) 人間福祉学部講演会

- ①テーマ： 「厚生労働省の保健福祉政策動向と重点課題」
- ②対象： 学生・地域関係機関職員・地域住民
- ③日時： 平成25年6月14日(金) 14時50分～16時10分
- ④場所： サテライト教室
- ⑤講師： 厚生労働省 政策評価官 峯村 芳樹 氏  
座長： 本学福祉コミュニティ学科長 西澤 哲 教授
- ⑥参加者：総数 28名(内訳： 学生16名、教員5名、職員7名)

\*学生を主な参加者と想定したが予想より少なく、学外者を含めた広報方法についての検討が必要であった。またアンケート結果より、ディスカッション時間をより長くするほうが、議論が深まり学生にとって興味を持てる内容になったのではないかという意見もあったので、今後の検討課題としたい。

(文責：神山裕美)

## (2) ソーシャルワークセミナー2013

①テーマ：「誰も安心して暮らせる地域づくりに向けて」

②対象：県内社会福祉協議会職員、地域医療・保健・福祉に携わる現任職員、学生等

③日時：平成25年12月6日(金) 13:30～16:00

④場所：サテライト教室

⑤内容：(1) 実践報告

1) 南アルプス市社会福祉協議会「南アルプス市のコミュニティソーシャルワークの取り組み」  
地域福祉課 中澤 まゆみ 氏

2) 笛吹市社会福祉協議会  
「地域の世代間交流を促進するCSW実践と展開システムの現状と課題」  
地域福祉課 佐々木 清美 氏

3) 大月市社会福祉協議会 「CSW実践に向けての地域住民のつながりづくり」  
地域福祉担当 安藤 剛 氏

4) 総括講演 早稲田大学人間科学学術院 教授 田中 英樹 先生

⑥参加者：総計66名(内訳：学生11名、社協職員26名、行政職員5名、病院職員4名、福祉施設3名、介護支援事業所・地域包括支援センター各2名、その他3名 無回答10名)

\*コミュニティソーシャルワーク実践が山梨県内でも蓄積されてきた。今回のアンケートから、学外参加者の関心も高く継続的開催を求める声もある。今後も現場の方々の意向を聴きながら、社会福祉関係職員のスキルアップに貢献できるよう検討したい。

(文責：神山裕美)

## (3) 第7回子育て支援フォーラム

①テーマ 「おんがくのおへやへようこそ」

絵本のせかいと音楽との よくばりコンサート

②趣旨 子育ての中の親とそれを支援する人々、支援者になる学生たち、保育者などに子育て支援について考える場を提供することにより、本県の子育て支援の質の向上を図る。

③対象 参加者総計 147名  
(内訳) おとな69名、こども49名、学生23、教員6名

④講師 柳澤安雄(二期会会員、川村学園女子大学幼児教育学科教授)  
村木洋子(ピアニスト、山梨県立大学人間福祉学部准教授)

⑥場所 山梨県立大学 飯田キャンパス 講堂



#### ⑦実施状況

親子参加型の演奏会として、バスバリトンの柳澤安雄氏の歌唱と教員村木洋子のピアノで、唱歌・オペラアリアなど14曲、ピアノ独奏曲2曲が演奏された。音楽物語「ぞうのババール」では朗読・ピアノに加えて、パワーポイントで絵本を映写した。人間形成学科3年生には、はじまりの手遊びや、最後のクリスマスソングメドレーに参加してもらい、会場の飾りつけや受付業務も担当してもらった。

#### ⑧参加者のアンケートより

- ・ピアノにさわって聴いたり、普段のコンサートではできないことが体験できてよかった
- ・コミカルな独唱は子どもたちに大いに受けた
- ・最初の先生たちのお話がおもしろかった、大人向けの企画としても良いのでは。
- ・マットが敷いてあり、子どもがのびのびと自由に歩けて良い
- ・このような音楽会を年に何回か実施してほしい
- ・小さい子どものためにお昼寝の時間をさけて午前中にしてほしい
- ・一流の演奏家と身近にふれることができることを、もっと多くの人に知らせたい
- ・学生さんの手あそびがたのしかった。
- ・子どもと大人がともに楽しめ本格的な音楽を聴く貴重な機会だった

(文責：村木洋子)

### (4) 健康講座

- ①テーマ：“サクセスフル・エイジング（幸福な老い）”の実現に向けて  
～老いを愉しむ ころの持ち方～
- ②対象：地域住民、県立大学教職員および学生
- ③日時：平成25年11月16日（土）14：00～16：00
- ④場所：山梨県立大学池田キャンパス
- ⑤シンポジスト

保坂 求氏（甲府市池田地区自治会連合会 会長）

永友 淳夫氏 (甲府市池田地区自治会連合会 副会長)

石川 甲子氏 (甲府市池田地区在住)

コーディネーター

渡邊 裕子 准教授 (山梨県立大学看護学部)

⑥実施状況：受講者数 31 名（男性 11 名、女性 20 名）

歳を重ねることの意味に気づき、ひとりひとりがこれからの老年期をどのように過ごしていくかを考えるきっかけとしていただけるよう、今年度の健康講座を企画した。シンポジストは、地域で生活している方々をお願いをした。

3名のシンポジストや参加者から、1人で暮らす心構えをはじめ、様々なことに興味を持ち地域の活動に参加すること、老いを受容しながら、毎日の生活を楽しみ、今を生き生きと生きるために大切にしていることや工夫していること、日頃から健康に心がけていること等の貴重なお話を伺った。

参加者のアンケートの記載より、各々が大変興味深いテーマであること、シンポジストの話から、「老年期」「高齢者」「老い」のイメージが変化したと述べていた。これらの事から、参加者が高齢者の魅力や強みを再発見（再認識）し、自分自身がどう歳を重ねていきたいかを考える機会となったことが示唆された。

また、「より多くの地域の方々がシンポジウムに参加できたらよかった」「高齢者予備軍の人々にも聞かせたい」等、皆で学習する大切さについての意見が多数あった。地域住民と連携をした活動を今後も継続することが必要性であると確認することができた。

(文責：城戸口親史)



左から  
シンポジストの  
永友さん、保坂さん、石川  
さん、  
コーディネーターの渡邊准  
教授

## (5) 国際政策学部講演会

①テーマ：「山梨で考える アフリカと中国 -貿易の視点から-」

②日時：2013年7月30日(火) 午後1時から3時

③場所：飯田キャンパス A館6階 サテライト教室

④趣旨：米国ネブラスカ大学オマハ校経営学部キャサリン・Y・コウ教授が来校されるに当たり、アフリカにおける中国企業の進出の状況に関する講演会が開催された。

⑤内容：アフリカ大陸における中国企業のインフラ整備事業を事例に、アフリカをめぐる中国の経済協力の実態について説明がなされた。またその関係性について経済学的視点からの分析が提示された。会場との質疑応答のなかでコウ教授から、日本の経済協力事業に関しても簡単な説明がなされた。講演会后、午後3時30分か

ら 4 時 45 分まで B302 教室にてコウ教授と本学学生、教員、高校生、市民の方々の交流会が開かれ、そこでも参加者同士の意見交換が行われた。

⑥参加人数：約 80 名

出席者の概要：本学学生(65+)、教員(8)、県内市民(6)、高校生(2)など

(文責：玉井亮子)

## 5. 「授業開放講座のあり方及び見直しについて」検討結果報告書作成

平成 24 年度業務実績に関する法人評価委員会指摘結果に基づき、地域研究センター長から生涯学習部門への検討依頼を受けて事務局と共に協議し、2013 年 11 月 28 日に 3070 字の報告書を作成し、地域研究センター長に提出した。

(1) 検討目的：法人評価委員会指摘事項の地域貢献に関する目標より授業開放講座について、①「受講者の大幅な減少」②「募集パンフレットや広報活動の見直し」③「聴講生や科目履修生制度との相違」④「社会人向けプログラムの一環としての講座の位置づけ、役割、期待される効果」の 4 点を検討した。

(2) 検討結果からの提案

### ①短期的対応策

- 1) 授業開放科目の理念と目的、対象を明確にする
- 2) 開放科目の申請手続きの簡略化
- 3) 授業開放科目数の増加
- 4) 大学 WEB サイトでの広報

### ②中・長期的対応

- 1) 自治体職員向けの研修講座編成
- 2) 目的や対象と授業との関連付け
- 3) 他組織との連携
- 4) インターネット動画での授業公開
- 5) 教員参加の動機づけ
- 6) インターネットによる情報発信

(文責：神山裕美)



# 地域研究部門

## 1. 地域研究部門の事業概要

地域研究交流センター（以下、センター）では、地域の現代的ニーズを踏まえた課題解決につながる研究、地域文化の発掘と活用、地域文化の創造につながる研究、地域に貢献する特色ある教育に関する研究を、3学部・研究科の教員から参加を募り、研究事業を実施している。研究事業には、センターが重点的に取り組む必要があると認め、複数学部の教員が参加するプロジェクト研究と、それ以外で地域貢献に資する共同研究がある。

本部門はこの事業の実施のために、企画、募集、選考、予算決定を行い、研究進捗管理、報告書作成、研究報告会開催などを行った。

## 2. 地域部門事業の実績と課題について

今年度は、昨年度改正された募集方法で実施し、プロジェクト研究5件、共同研究2件を採択した。

さらなる研究の質の向上に資するために、報告書に基づいて「検証委員会」を設置することが決まっていますが、今年度はどのような項目でどう検証するべきか具体的な検討を行った。地域研究部会を7月2日、7月30日、12月17日、2月5日の4回開催し、採択基準および評価基準についての検討を行った。

その結果、以下の項目について、選考委員会と終了後の検証委員会で評価する案を策定した。平成26年度より適用し、募集の際から明示することにする。

<地域研究事業選考評価項目>（選考時と検証時に使用）

### ①研究ネットワーク

複数学部教員の参加予定の有無。学外団体の有無。各共同研究者の研究における役割分担の設定の適正性

### ②計画性

当該年度における研究実施計画の実現可能性及び適正性。複数年度にまたがる申請の場合、各年度における計画の振り分けの実現可能性及び適正性。従前から引き続いている研究の場合、研究計画への従前の成果の反映度

### ③研究目的・研究手法

研究目的と地域のニーズとの合致。研究方法及び研究対象と研究目的との具体的関連性の有無。研究方法等につき倫理上の配慮が必要な場合、その検討の有無

### ④研究の有効性

研究の地域貢献に関する具体的な目標設定の有無。研究成果の具体的な受益者の有無。研究成果の発展、応用の可能性

### ⑤申請予算

応募額の規模の適正性。積算基準の明確性

### ⑥独創性

当該研究の独創性

最後に、地域研究に参加されたすべての方々、「評価項目」策定に関わった部門の方々、多くの時間を割いていただいた事務局の方々に深く感謝したい。

## 【地域研究部門の個別事業】

### 1. 研究の概要

#### 地域研究の募集と採択

今年度は、昨年度改正された募集方法に基づき、4月22日プロジェクト研究・共同研究を同時募集した。5月20日に〆切、全部で10件の応募があった。5月27日に選考委員会を実施し、プロジェクト研究5件、共同研究2件を採択した。

採択された研究は以下の通りである。

#### 1) プロジェクト研究

- (1) 高齢者への見守りと地域連携の総合的研究Ⅱ
- (2) 山梨県に在住する外国人児童生徒の健全な育成に向けて～日本語を母語としない児童生徒及び保護者のための進路進学ガイド作成プロジェクト～
- (3) 地域資源を活かしたビジネス展開の可能性について一甲斐絹の伝承と発信のためのプログラム開発～
- (4) 高齢者の“サクセスフル・エイジング”実現に向けての基礎的研究～地域在住高齢者と若者（大学生）との異世代間交流を通して～
- (5) 多文化共生推進プロジェクト：保健・医療・福祉における大学・地域・行政の連携に向けて

#### 2) 共同研究

- (1) 地域資源を教育資源に～地域文化・資源の継承・発展に関する教育活動支援の実施～
- (2) 山間過疎地域で暮らす独居・夫婦世帯高齢者の支援に関する研究～後期高齢者の安心感のある暮らしに焦点をあてて～

### 2. プロジェクト研究報告

#### 1) 「高齢者への見守りと地域連携の総合的研究Ⅱ」

##### ① 研究目的

本研究は、昨年度の「高齢者への見守りと地域連携の総合的研究Ⅰ-市民後見人育成の基礎検討-」における高齢者支援のための地域連携モデル、地域コミュニティにおける支援モデルの検討に引き続くものである。本研究では、地域における高齢者の財産管理や身上監護に関する支援システムの中で、金融機関の役割と新たな制度モデルを示すことを試みた。地域コミュニティにおける、金融機関（銀行）の役割と課題についての論点整理を行い、その中で主として高齢者の金融資産等の財産管理上の問題点を明らかにした。

##### ② 研究内容と成果

本研究の成果は、山梨県立大学地域研究交流センター2013年度研究報告書「高齢者への見守りと地域連携の総合的研究Ⅱ-金融機関と後見制度について-」としてまとめることができた。その内容は、第1章「成年後見制度の概要」において、成年後見制度について法定後見と任意後見の内容とその事務の流れについて概観し、それぞれの制度の特徴について分析した。第2章「金融機関における高齢者取引」では、金融機関の業務との関わりを中心に取引の開始・確認資料、

預金取引、カード取引等について、また、高齢者との取引上の留意点について検討した。特に、成年後見制度との関係で、高齢者本人や家族との面談、高齢者への身上配慮義務について詳しく検討してみた。第3章「日常生活自立支援事業制度と金融取引」では、日常生活自立支援事業制度の概要と取引上の留意点につき、社会福祉協議会との連携や成年後見制度との関係について、実務担当者のヒアリングを経て、その問題点について指摘した。第4章「成年後見支援信託」では、制度導入の背景と概要、契約の流れ等について触れ、後見制度における問題点と信託の利用事例として紹介することができた。第5章「アメリカにおける福祉信託の活用事例」では、ミズリー州を中心とした特別障害者支援信託（MSNT）の概要とその特色、機能について紹介し、日本への示唆と今後の制度改革について検討することができた。第6章「高齢者の金融取引と信託の活用」では、身上配慮義務とわが国における制度的な課題について述べ、最後にわが国における信託の活用についての方向性と金融機関との連携について言及した。

以上の研究成果は、今後の高齢者支援のための地域連携モデルを考える上での基礎研究となった。今後は、地域における後見の担い手の養成、特に市民後見人についての法的意義と課題について検討して参りたい。

### ③ 担当者

- ・ 澁谷彰久（国際政策学部 研究代表者）
- ・ 依田純子（看護学部）
- ・ 伊藤健次（人間福祉学部）
- ・ 藤巻真里子（笛吹市社会福祉協議会 後見センターふえふき）
- ・ 萩原学（笛吹市社会福祉協議会後見センターふえふき）
- ・ 小林恵（リーガルサポート山梨 司法書士）

## 2) 山梨県内在住外国人児童生徒の健全な育成のために 進路進学サイト作成プロジェクト

### ① 研究目的

山梨県内に在住する外国人児童生徒及び保護者に関する課題の一つに、学校生活や進学に必要な情報の不足がある。その背景には児童生徒・保護者の日本語能力の問題と、ホスト側の多言語対応における問題がある。

本プロジェクトの目的は、外国から来た児童生徒が、学校生活や進学に関してできるだけ現在のハンディが縮小できるよう、誰でも容易にアクセスできる多言語による情報サイトをインターネット上に構築することにある。山梨県では、こうした情報サイトはほぼ見当たらない。また国や他機関で作成されたサイトでは、山梨県固有の情報を知ることはできない。

今回のサイト作成にあたっては上記の状況を勘案した上で、(1) 領域別にきめ細かな情報提供を行う、(2) 大学進学を含む、子どもたちの将来設計に役立つ幅広い情報提供を行う、(3) 外国の方の目線に立って必要な情報の取捨選択を行う、(4) 誰にでも容易に使うことのできる設計にする、ということを検討した。

### ② 研究内容と成果

昨年度の日本国内における進路進学ガイドの分析と、外国人保護者及び支援者からの聞き取りを基に、今年度は(1) 保育所・幼稚園、(2) 小学校・中学校の生活、(3) 高校進学、(4) 大学進学の4つの項目の資料を作成し、それぞれを英語、中国語（簡体字）、中国語（繁体字）、韓国語、スペイン語、ポルトガル語に翻訳した。また、できるだけ資格情報を多用し、言葉で伝わらない部分を補った。さらに文化の違いからくる誤解を避けるため、外国人からのQAや語彙説明のページを別に立てた。

サイトはトップページより多言語版に直接アクセスできるほか、日本語の各項目から翻訳され

たページに進むことができる。また、関連する情報のリンクを項目内に設けてあるため、詳細な情報は外部サイトから入手が可能である。

これによって、外国人児童生徒及び保護者、また学校関係者、日本人支援者等多様な人々が、必要な情報をピンポイントで手軽に取得することができる。このサイトの活用方法としては、外国人児童生徒、保護者は必要な情報の獲得のため、支援者は日本の学校情報提供のための基礎資料として、また外国人向けの進学説明会等を開催する支援者は、サイト情報をダウンロードして提供することも可能である。

今後は、サイトの管理とともに、不足する情報や年度ごとの変更にどのように対応するかが検討課題である。また、県内在住外国人の言語をすべてカバーしているわけではないので、他の翻訳言語を付加することも検討課題である。

2014年度は、本サイトの公開説明会を予定している。

### ③ 担当者

安藤淑子（国際政策学部 研究代表者）

やまなし子ども学習支援連絡協議会（代表 安藤淑子）

## 3) 地域資源を活かしたビジネス展開の可能性について

### －甲斐絹の伝承と発信のためのプログラム開発－

#### ① 研究目的

「甲斐絹」の地域文化として伝承のための教育プログラムを開発するとともに、地域や国内でのビジネス展開、発信方法を検討し、「甲斐絹」すなわち地域資源を活かしたビジネス展開の可能性を探ることを目的として研究を進めた。

#### ② 研究内容と成果

##### ・研究会の開催

平成26年1月27日（月）、センター研修室において研究会を開催した。

##### ・学会での研究内容の公表

平成25年6月22日、名古屋市、相山女学園大学で開催された一般社団法人日本繊維製品消費科学会2013年次大会において、「地域産業の伝承と発信のためのプログラム開発-山梨県甲斐絹を事例として-」という題目で研究発表を行った。

##### ・飯田甲斐絹堂及び甲斐絹プロジェクト学生グループ活動報告

飯田甲斐絹堂ホームページ作成、新製品開発検討（カードケース）、飯田甲斐絹堂英文パンフレット作成、COC事業における国際キルトフェスティバルでの展示品作成並びに英文アンケート作成、大学祭出展、朝日通りえびす講祭出展、県立美術館・セブンイレブン宛て製品取り扱い依頼、大学卒業記念名刺入れ発注準備など、活発な活動を行い、会議数は21回にもなった。本プロジェクト活動は県立大学地域研究交流センターにより平成25年度学生優秀地域プロジェクトに認定された。

##### ・平成26年2月、県立大学飯田キャンパスにおいて、山梨県富士工業技術センター五十嵐哲也氏の講演会を企画したが、天候不順（大雪）のため中止となった。

##### ・報告書を公表するとともに、平成26年3月25日の報告会で活動報告を行った。

### ③ 担当者

研究代表者：斉藤秀子（人間福祉学部）

共同研究者：波木井昇（理事）、五味武彦（理事）、黒羽雅子、安達義通、箕浦一哉（国際政策学部）、古屋 祥子（人間福祉学部）、志村結美（山梨大学大学院）、一瀬富房（山梨県産業労働部産業支援課）、伴野正明（山梨県峡南農務事務所）、前田市郎、山崎泰洋、榎田則夫、田辺丈人（株式会社甲斐絹座）、一瀬美教（株式会社大直）雨宮陽子、内田雄士（株式会社山梨中央銀行）、黒羽雅子教授ゼミ学生 10 名

#### 4) 高齢者の“サクセスフル・エイジング”実現に向けての基礎的研究

##### ～ 地域在住高齢者と若者(大学生)との異世代間交流を通して ～

###### ① 研究目的

- 1) 地域在住の 65 歳以上の高齢者の生活実態および老後の生活に対する意識とサクセスフル・エイジングの関連要因を明らかにし、サクセスフル・エイジングの実現に向けたプログラムを開発に向けての基礎資料とする。
- 2) 中高年期にある参加者が歳を重ねることの意味に気づき、ひとりひとりがこれからの老年期をどのように過ごしていくかを考えるきっかけとなる。

###### ② 研究内容と成果

###### 1) 地域在住高齢者の生活実態と老後の生活に対する意識に関する調査

A 地区に在住する 65 歳以上の高齢者 1,650 名（高齢者人口は平成 25 年 4 月 1 日現在）を対象に自記式質問紙による調査を実施し、597 名から回答が得られた（回収率 36.2%）。今回の調査では、女性、前期高齢者、独居、悩みやストレスあり、社会参加していない、若者と交流する機会がない、経済的な困難ありに「幸せな老後への不安あり」が多かった。高齢者は持病や加齢変化から【健康面への不安】を感じ、年金のみの生活で、病気や介護に必要な【金銭面への不安】や【介護への不安】を抱いていた。また、【病気を患い介護を必要とした時に様々な人に迷惑をかけてしまうことが不安】のように、家族を支え生活してきた高齢者だからこそ抱く思いが窺えた。これらの不安は、加齢変化や介護保険制度などについて、正しい知識を持つことで軽減できるのではないかと考える。

一方、【家族との生活環境の変化から生じた不安】や【今後の家族の将来が不安】とも感じているため、家族や若い世代の人々と相互交流・理解を深めていく必要がある。

A 地区は高齢化率 19.2%と比較的若い地区で、住民が交流できる事業（運動会・文化祭・サークル活動・地域奉仕活動など）も活発に行われており、地域住民は大学との交流も積極的に求めている。サクセスフル・エイジングの構成要素である QOL の向上には、身近なところでできる社会参加・貢献は有効と考え、我々は地域高齢者に看護学生の授業に協力してもらい、相互交流できる機会や老年期の理解を深める健康講座を設けている。今後も大学を拠点として、若者世代と気軽に話しができる機会を増やし、前期高齢者や女性を中心にした健康講座の開催や独居高齢者の訪問、気軽に健康相談ができる場の設定など、地域高齢者のサクセスフル・エイジング実現に向けたプログラムの開発を目指したいと考える。

###### 2) 健康講座の開催

“サクセスフル・エイジング（幸福な老い）”の実現に向けて～老いを愉しむこころの持ち方～と題し、地域在住高齢者 3 名を招いてシンポジウムとミニ講義を行った。シンポジストが加齢に伴う様々な変化に向き合い工夫しながら、人生の中で培ってきた価値観を大切に生きて生活する姿から、参加した青年期～老年期の幅広い年代の人々が、歳を重ねることの価値を感じ、自身の老年期を考えるきっかけになったと考える。

③ 担当者

渡邊裕子（研究代表者）・流石ゆり子・森田祐代・萩原理恵子・小山尚美・渡邊輝美（看護学部）  
柗崎京子（人間福祉学部）

研究協力者：保坂求・永友淳夫（甲府市池田地区自治会連合会）

5) 研究名 多文化共生推進プロジェクト：

保健・医療・福祉における大学・地域・行政の連携に向けて

① 研究目的

山梨県の多文化共生の推進に寄与すべく、外国籍住民の保健、医療、福祉面での諸問題を市民団体、NPO、医療機関などと連携・協働して行う活動の中から明らかにし、それをいかにして公的サービスにつなげていくか検討する。とりわけ、この2年間に引き続き、主に外国人学校の児童生徒の保健の問題点の解決策を検討し、健診を含めた保健活動のさらなる充実をはかると共に、健康管理システムを構築し、加えて外国人学校の保健のあり方に関して県市町の保健行政への提言書を作成することを今年度のプロジェクトの目的とする。

② 研究内容と成果

本年度の研究は、この3年来取り組んできた、学校保健安全法の適用のない外国人学校での保健活動を、どのように充実させ公的サービスにつないでいくかというコーディネートに関する研究と、児童生徒の「食事と排便」に関する調査研究との2本立てである。

後者の「食事と排便」に関する調査は、外国人学校において肥満傾向の児童生徒の割合が凡そ30%と、一条校のその3倍をうわまわるという平成23年度の健診結果に基づいて、平成24年度から行われている。前年度のブラジル人用の調査票開発に続き、今年度は児童生徒の生活時間調査、「食事と排便」の調査票の改良とその調査が実施された。その結果、排便状況と食事内容について現状把握することができた。今後は、この現状を外国人学校の教員と共有し、望ましい排便習慣の確立に向けた介入を検討していく必要がある。

前者のコーディネートに関する研究は、研究代表者が代表を務める任意団体を対象に、この3年間でどのように、どれほどの保健・医療機関と連携・協働をはかり、健診を充実させ、最終的に公的サービスにつないでいくことができるかという実践研究である。連携・協働は、研究者のもつ大学と多文化系の組織を背景にした様々な社会資源（看護学部、保健センター、医療職、多文化系のネットワーク等）を活用しながら、外国人学校の現状を含めた多文化共生の現状を共有して人間関係を築いていくことで、市民団体から公的機関にまで、広がっている。また、保健情報については、直接県内の外国人学校に提供するだけではなく、全国組織のネットワークをとおした拡散も行っている。これらの連携・協働・情報提供により、外国人学校における一条校並みの健診項目の実施と保健知識の啓発が可能になった。

研究主体が現場に足を運び、活動主体および活動対象と密接な関わりを持ち現場の実情を詳細に把握することで、より適切な活動内容を実現した。また、連携・協働を創り出したことにより、研究者なくとも費用面を除けば活動が継続できるようになったと考える。プロジェクトとして多文化共生に向けた一活動の定着を図ることができたといえよう。

一方で、健康診断を公的サービスにつなげるという点では、保健所の出前講座までであり、市町による健診費用の負担というところまで到達していない。また、もう一つの目標である健康管理システムの構築は、検討の段階である。保健行政への提言書は、現在作成中である。

③ プロジェクト担当者

プロジェクト代表者：長坂香織（看護学部）

プロジェクト共同研究者：鳥居美佳子（人間福祉学部）、名取初美、城戸口親史（以上、看護学部）、永井敬二（甲府共立病院）

### 3 共同研究報告

#### 1) 地域資源を教育資源に～地域文化・資源の継承・発展に関する教育活動支援の実施～

##### ① 研究目的

双葉東小学校は甲府のベッドタウンとして甲府市の西側に位置する人口 73,000 人の甲斐市にある。甲斐市には、文化遺産・自然資源・経済資源として、武田信玄が建築した信玄堤、甲斐市北部の昇仙峡、果実を中心とする各種農産物などがある。江戸時代には甲州街道の宿場町として栄え、儒学者である山縣大弐を輩出している。

このように豊かな地域資源に恵まれていながら、急速にベッドタウン化が進んだこの地域には、新しく宅地化された土地に移住してきた若い世代が多く、その価値が十分に認識されているとはいえない。地域文化・資源の継承・発展を考えると、課題は多い。

そこで、小学生が親や地域住民と一緒に地域資源の観察や体験、さらには探求学習をすることによって地域の価値を認識・理解し、継承・発展について考えていくような教育活動を展開する。「地域の資源は自分たちが守り、次世代へ継承していく」という意識付けを、異なる世代がともに地域の課題や発展について考えていくきっかけとし、地域の活性化につなげていくことを目的とする。

##### ② 研究内容と成果

###### 【研究内容】

平成 25 年度は、まず、「継承」の活動として地域に存在する資源について、小学生が取材を行う。3 年生の社会科・4 年生の総合的な学習の時間に「まちを知ろう」という単元があり、この時間をあてていく。取材は、祖父母や地域の人々にインタビューをしたり、実際にまちを歩いたりする。

その際、本研究事業の支援を受けて整備したいタブレット型端末 (iPad) を積極的に活用する。取材で得た情報を学年間で電子黒板等を使いながら相互に発表し共有するとともに、他の地区の小学生にもわかるようにホームページに掲載していく。

###### 【成果】

- 教員への地域資源活用に関するアンケートを実施し、その効果について調査を行った。
- 地域資源を活用する授業の実践の洗い出し（全学年）
- 研究授業の実践（1 年生，3 年生）
- 情報発信（ホームページ，学校だより，公開研究会）

##### ③ 担当者

八代一浩（国際政策学部 研究代表者），堀井啓幸（人間福祉学部），池田充裕（人間福祉学部）  
森本 清（双葉東小学校），小林正江（双葉東小学校），双葉東小学校教職員 34 名  
久保田勲（山梨県総合教育センター），中村弘和（山梨県総合教育センター）

## 2) 山間過疎地域で暮らす独居・夫婦世帯高齢者の支援に関する研究

### —後期高齢者の“安心感のある暮らし”に焦点をあてて—

#### ① 研究目的

- ・山間過疎地域で暮らす独居・夫婦世帯高齢者のソーシャル・サポート授受の実態及び高齢者が考える日々の生活における安心感を明らかにする。
- ・上記を踏まえ、高齢者が住み慣れた地域で最期まで暮らし続けるために必要な支援及びそのネットワークのあり方について明らかにする。

#### ② 研究内容と成果

- ◇ 研究対象者：過疎地域自立促進特別措置法で指定された A 県 B 町の中で最も高齢化率の高い D 地区で生活する 75 歳以上の独居・夫婦世帯高齢者とし、同意の得られた 16 名を対象者とした。
- ◇ データ収集方法：インタビューガイドを用いた半構成的面接を実施した。内容は、基本属性（年齢、性別、居住年数、健康状態、活動能力）、1 日の生活の流れ、近所づき合い・人づき合い、不安に思っていること、高齢者が考える“安心感のある暮らし”、困った時の相談相手、自己の他者支援状況などのソーシャル・サポート授受などについて自由に語ってもらった。
- ◇ 分析方法：作成した逐語録を繰り返し読み、対象者毎に「ソーシャル・サポート授受」および「安心感のある暮らし」に関連する内容について語られている部分を中心に抽出し、一文一義になるように文書を区切り、文脈が損なわれないようにコード化し、その後、類似性と相違点に留意しながらカテゴリ化して抽象度を高めた。
- ◇ 倫理的配慮：本研究は、山梨県立大学看護学部及び看護学研究科研究倫理審査委員会の『承認』を得て実施した。
- ◇ まとめ：独居高齢者は、昔から続いている近隣との付き合いが現在のソーシャル・サポートに繋がっていた。高齢化に伴い部落内を行き来する範囲は縮小し、お互いに特別な相談をすることは少なくなったが、お互いに物をあげたりもらったりしながらさりげない支援をし合いながら生活をしていた。その中で、困った時にすぐに駆けつけてくれる近隣の存在や、いつも気にかけて見守ってしてくれる別居子を何よりも頼りにしていた。また、定期的に訪問してくれる民生委員や介護保険事業所などの存在も重要なサポートになっており、生活する中での安心感に繋がっていた。

一方、夫婦世帯高齢者では、夫婦でお互いの健康を気遣いながら協力し合って生活しており、いつも気にかけてくれる別居子の存在を心強く感じていた。また、地域の過疎化が進行することで昔から続いてきた地域行事が廃止になることにさみしさを感じていた。しかし、近隣との付き合いは挨拶をする程度であり、困った時に支え合うサポートの仕組みは希薄であった。山間部特有の災害時の不安や生活の不便さを感じつつも、自分らしく生活できることを望んでいた。これらのことから、今後も住み慣れた地域で生活を継続していくためには、高齢者の心身の健康維持・増進や、近隣との付き合いの継続、定期的に訪問してくれる人の存在を含めた地域での見守りシステムなど、高齢者保健福祉活動における支援の必要性が示唆された。

#### ③ 担当者

研究代表者：森田祐代（看護学部）

研究分担者：流石ゆり子、渡邊裕子、萩原理恵子、小山尚美（看護学部）

今橋美穂、雨宮ゆみ（山梨県甲州市役所 地域包括支援センター 保健師）

（以上 7 件の研究報告の文責は各研究代表者）



## 4. 研究報告会の実施

地域研究交流センター主催の研究報告会を、3月25日13時30分～17時30分、飯田キャンパス・サテライト教室にて開催した。7つの報告にそれぞれ11人～21人が出席、延べ117人が熱心に参加された。

アンケートは、総じて有意義であり、高く評価されている。自由意見として以下のような貴重な指摘があった。今後の報告会の実施にあたり、検討していきたい。

- ・研究が学生の学びや授業の中でどのように活かされていくのかというイメージを示して欲しい。
- ・研究課題によりばらつきがあり、「研究のプロセス、結果、考察」までを明確にして欲しい。
- ・研究の分析と今後の展開（社会のつながり、産業とのつながり）について、聞かせていただきたい。
- ・先生方の研究に関わった学生たちの声も聞いてみたいので、そうした場を設けて欲しいです。
- ・当事者が中心の発表会の感が強い。多忙な時期ではあるが、学内教員の参加を望む。今後の検討課題である。

いつも感じることだが、様々な貴重な研究が発表されているが、集客の点でさびしい限りである。多くの県民の方々にどうやって伝えていくべきか、さらに研究していきたい。

（文責：前澤哲爾）

# 事務局

## 1. 運営委員会記録

### 1. 第1回 平成25年4月16日（火）

主な協議・報告事項：委員交代、部門委員の配置について／平成25年度計画について／平成25年度予算について／平成25年度共同研究・プロジェクト研究公募について／観光講座について／子育て支援リーダーステップアップ講座について／COC事業について

### 2. 第2回 平成25年5月23日（木）

主な協議・報告事項：「教員の地域貢献活動」支援について／ニューズレターNo. 19 企画内容／春季総合講座について／県民コミュニティーカレッジについて／観光講座について／地域研究事業について／地元自治会との会合について

### 3. 第3回 平成25年6月26日（水）

主な協議・報告事項：子育て食育講座について／平成25年度後期授業開放講座の対象講座募集について／ニューズレターNo. 20 企画内容／春季総合講座実施報告／学部共催講座について／共同研究・プロジェクト研究経費等について

### 4. 第4回 平成25年7月24日（水）

主な協議・報告事項：COCプロジェクトについて／平成24年度年報の発行について／観光講座について／授業開放講座対象授業申請状況について／地域研究事業選考評価について

### 5. 第5回 平成25年9月18日（水）

主な協議・報告事項：平成24年度業務実績に関する評価結果について／COC事業における特任教授の推薦について／センター室のレイアウト変更について／観光講座について／生涯学習部門講座年間予定について／県民コミュニティーカレッジ（広域ベース）について

### 6. 第6回 平成25年10月17日（水）

主な協議・報告事項：COCプロジェクトについて／平成24年度業務実績に関する法人評価委員会の指摘事項への対応について／ニューズレターNo. 21 の企画内容／池田地区防災訓練への参加協力報告／子育て支援リーダー・ステップアップ講座実施報告

### 7. 第7回 平成25年11月27日（水）

主な協議・報告事項：COC事業における特任教授の推薦について／平成27年度大学案内・地域研究交流センター紹介ページについて／法人評価委員会指摘事項（授業開放講座講座数及び受講者数の減少）の対応について／平成26年度予算案について／学生優秀地域プロジェクトについて

### 8. 第8回 平成25年12月19日（木）

主な協議・報告事項：授業開放講座実施要項の一部改正について／「やまなしの女性史を学ぶ」実施報告／奥付への名義使用について／県民コミュニティーカレ

ッジ（地域ベース、広域ベース）中間実施報告／子育て支援フォーラム実施報告／ソーシャルワークセミナー実施報告／平成25年度地域研究交流センター年報について

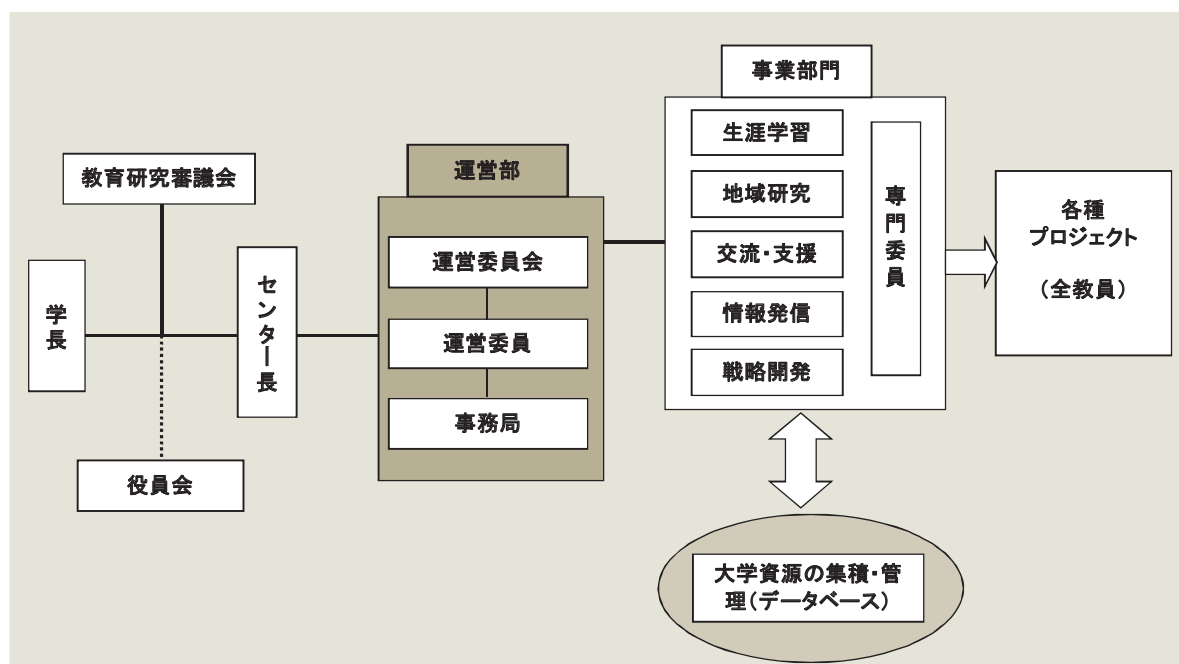
9. 第9回 平成26年2月20日（木）

主な協議・報告事項：平成26年度予算について／地域研究事業選考基準および検証評価について／学生優秀地域プロジェクト認定選考結果について／県民コミュニティーカレッジ実施報告／地域研究交流センター研究報告会について／平成27年度大学案内・地域研究交流センター紹介ページについて／代理議長の選任方法について

10. 第10回 平成26年3月13日（木）

主な協議・報告事項：平成25年度地域研究交流センター年度計画について／地域研究交流センター研究報告会について／地域研究交流センター特任教授の推薦について／ニューズレターNo. 22の企画内容

2. 組織図・委員名簿  
(1) 組織図



(2) 委員名簿

		総合政策学科	国際コミュニケーション学科	福祉コミュニティ学科	人間形成学科	看護学科	特任
地域研究交流センター 運営委員会		箕浦 玉井 石山	吉田(均) 前澤 八代	藤谷 神山 柗崎	村木	村松 小林(美)	奥水 池田(政)
事業部門 (専門委員)	交流・支援		平野	◎柗崎 川池		○渡邊(裕)	
	情報発信	○石山 箕浦	八代	◎藤谷	古屋	太久保	
	生涯学習	玉井	高野(美)	◎神山	村木	○村松 城戸口	
	地域研究	○玉井	◎前澤	柳田		小林(美)	奥水
	戦略開発		吉田(均)				
特別担当	看護・福祉専門職支援コーディネーター			下村		渡邊(裕)	

運営委員は専門委員を兼務 ◎部門長 ○副部門長

下線 運営委員以外の専門委員

### 3. 地域研究交流センター委員一覧

( \* 運営委員 )

学部	学科	氏名	専門領域
国際政策学部	総合政策学科	箕浦 一哉 *	環境社会学
		玉井 亮子 *	政治学、行政学
		石山 宏 *	会計学
	国際コミュニケーション学科	吉田 均 *	国際開発、国際協力
		前澤 哲爾 *	映像メディア論
		八代 一浩 *	情報通信
		高野 美千代	イギリス文学、イギリス文化
		平野 和彦	中国近代文化論
	人間福祉学部	福祉コミュニティ学科	藤谷 秀 *
神山 裕美 *			社会福祉(社会福祉援助技術論)
柊崎 京子 *			介護福祉(生活支援技術)
柳田 正明			知的障害者福祉・地域生活支援
川池 智子			社会福祉原論、児童・障害児福祉
下村 幸仁			社会保障論
人間形成学科		村木 洋子 *	音楽教育、ピアノ、ソルフェージュ、作曲
		古屋 祥子	美術、彫刻
看護学部		看護学科	村松 照美 *
	小林 美雪 *		成人看護学
	渡邊 裕子		老年看護学
	大久保 ひろ美		小児看護学
	城戸口 親史		成人看護学
地域研究交流センター特任教授		輿水 達司 *	地質学、地下水学
地域研究交流センター特任教授		池田 政子 *	心理学、ジェンダー問題

資料 1. 年間の時系列記録

年 月 日	事業・行事名	部門名
2013年4月16日	第1回地域研究交流センター運営委員会	
2013年4月19日	前期授業開放講座受講申込み締切	生涯学習
2013年4月23日	第1回交流・支援部門会議	交流・支援
2013年5月7日	第2回交流・支援部門会議	交流・支援
2013年5月13日	第1回生涯学習部門会議	生涯学習
2013年5月16日	第1回情報発信部門会議	情報発信
2013年5月23日	第2回地域研究交流センター運営委員会	
2013年5月27日	地域研究事業選考委員会	地域研究
2013年6月2日	日本語・日本文化講座(1)	生涯学習
2013年6月8日	春季総合講座	生涯学習
2013年6月9日	日本語・日本文化講座(2)	生涯学習
2013年6月14日	人間福祉学部講演会	生涯学習
2013年6月16日	日本語・日本文化講座(3)	生涯学習
2013年6月19日	第2回情報発信部門会議	情報発信
2013年6月23日	日本語・日本文化講座(4)	生涯学習
2013年6月25日	幼児教育センター月齢別講座(看護学部)	生涯学習
2013年6月26日	第3回地域研究交流センター運営委員会	
2013年6月26日	幼児教育センター月齢別講座(人間福祉学部)	生涯学習
2013年6月27日	幼児教育センター月齢別講座(看護学部)	生涯学習
2013年6月28日	地域研究交流センターニューズレター「tobira」第19号発行	情報発信

2013年6月28日	幼児教育センター月齢別講座(人間福祉学部)	生涯学習
2013年7月1日	子育て支援リーダー・ステップアップ講座	生涯学習
2013年7月2日	第1回地域研究部門会議	地域研究
2013年7月3日	幼児教育センター月齢別講座(人間福祉学部)	生涯学習
2013年7月4日	幼児教育センター月齢別講座(看護学部)	生涯学習
2013年7月5日	第3回子育て食育講座	生涯学習
2013年7月5日	幼児教育センター月齢別講座(人間福祉学部)	生涯学習
2013年7月7日	日本語・日本文化講座(5)	生涯学習
2013年7月8日	子育て支援リーダー・ステップアップ講座	生涯学習
2013年7月8日	地元自治会との懇談会	交流・支援
2013年7月10日	幼児教育センター月齢別講座(人間福祉学部)	生涯学習
2013年7月19日	第3回情報発信部門会議	情報発信
2013年7月21日	日本語・日本文化講座(6)	生涯学習
2013年7月21日	第1回観光講座	生涯学習
2013年7月24日	第4回地域研究交流センター運営委員会	
2013年7月24日	第2回生涯学習部門会議	生涯学習
2013年7月26日	子育て支援リーダー・ステップアップ講座	生涯学習
2013年7月30日	国際政策学部講演会	生涯学習
2013年7月30日	第2回地域研究部門会議	地域研究
2013年8月4日	子育て支援リーダー・ステップアップ講座	生涯学習
2013年8月11日	第2回観光講座	生涯学習
2013年8月25日	池田地区総合防災訓練への参加・協力	交流・支援

2013年8月27日	子育て支援リーダー・ステップアップ講座	生涯学習
2013年9月1日	第3回観光講座	生涯学習
2013年9月8日	第4回観光講座	生涯学習
2013年9月18日	第5回地域研究交流センター運営委員会	
2013年9月20日	子育て支援リーダー・ステップアップ講座	生涯学習
2013年9月20日	地域研究交流センターニューズレター「tobira」第20号発行	情報発信
2013年9月22日	第5回観光講座	生涯学習
2013年10月6日	日本語・日本文化講座(7)	生涯学習
2013年10月7日	子育て支援リーダー・ステップアップ講座	生涯学習
2013年10月9日	第4回情報発信部門会議	情報発信
2013年10月11日	後期授業開放講座受講申込み締切	生涯学習
2013年10月17日	第6回地域研究交流センター運営委員会	
2013年10月20日	日本語・日本文化講座(8)	生涯学習
2013年10月22日	幼児教育センター月齢別講座(看護学部)	生涯学習
2013年10月23日	幼児教育センター月齢別講座(人間福祉学部)	生涯学習
2013年10月25日	幼児教育センター月齢別講座(人間福祉学部)	生涯学習
2013年10月27日	日本語・日本文化講座(9)	生涯学習
2013年10月29日	幼児教育センター月齢別講座(看護学部)	生涯学習
2013年10月30日	第3回生涯学習部門会議	生涯学習
2013年10月31日	幼児教育センター月齢別講座(看護学部)	生涯学習
2013年11月1日	幼児教育センター月齢別講座(人間福祉学部)	生涯学習
2013年11月6日	幼児教育センター月齢別講座(人間福祉学部)	生涯学習



2013年11月7日	幼児教育センター月齢別講座(看護学部)	生涯学習
2013年11月8日	幼児教育センター月齢別講座(人間福祉学部)	生涯学習
2013年11月13日	第5回情報発信部門会議	情報発信
2013年11月14日	幼児教育センター月齢別講座(看護学部)	生涯学習
2013年11月16日	健康講座	生涯学習
2013年11月17日	日本語・日本文化講座(10)	生涯学習
2013年11月27日	第7回地域研究交流センター運営委員会	
2013年11月28日	「授業開放講座のあり方及び見直し」報告書作成	生涯学習
2013年12月1日	日本語・日本文化講座(11)	生涯学習
2013年12月1日	県民コミュニティカレッジ広域講座(ワークショップ①)	生涯学習
2013年12月6日	ソーシャルワークセミナー2013	生涯学習
2013年12月7日	子育て支援フォーラム	生涯学習
2013年12月7日	県民コミュニティカレッジ(地域ベース講座)第1回	生涯学習
2013年12月8日	日本語・日本文化講座(12)	生涯学習
2013年12月8日	県民コミュニティカレッジ広域講座(ワークショップ②)	生涯学習
2013年12月14日	県民コミュニティカレッジ(地域ベース講座)第2回	生涯学習
2013年12月15日	日本語・日本文化講座(13)	生涯学習
2012年12月17日	第3回地域研究部門会議	地域研究
2013年12月18日	第6回情報発信部門会議	情報発信
2013年12月19日	第8回地域研究交流センター運営委員会	
2014年1月11日	県民コミュニティカレッジ(地域ベース講座)第3回	生涯学習
2014年1月15日	第7回情報発信部門会議	情報発信

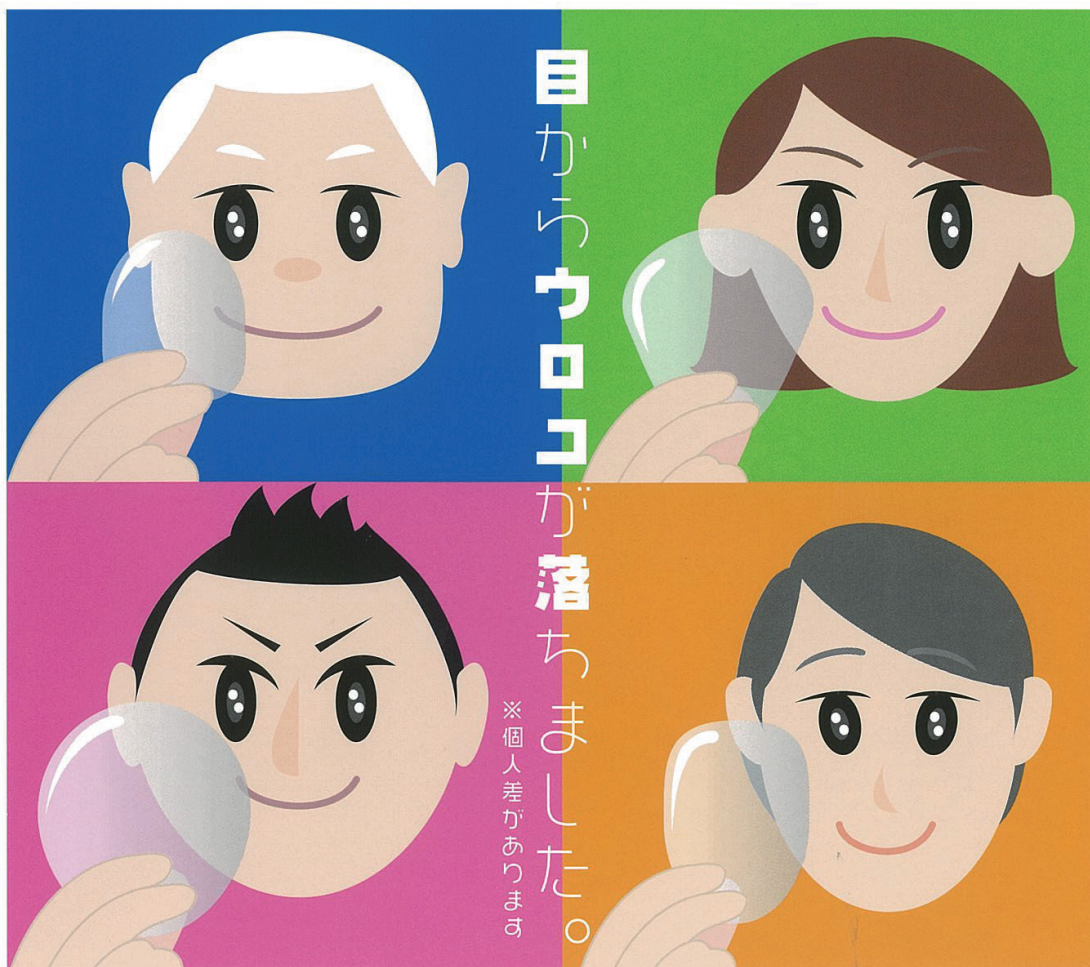
2014年1月22日	第3回交流・支援部門会議(学生優秀地域プロジェクト選考委員会)	交流・支援
2014年1月22日	幼児教育センター月齢別講座(人間福祉学部)	生涯学習
2014年1月24日	幼児教育センター月齢別講座(人間福祉学部)	生涯学習
2014年1月25日	県民コミュニティカレッジ(地域ベース講座)第4回	生涯学習
2014年1月26日	日本語・日本文化講座(14)	生涯学習
2014年1月29日	学生優秀地域プロジェクト認定式	交流・支援
2014年1月29日	幼児教育センター月齢別講座(人間福祉学部)	生涯学習
2014年1月30日	幼児教育センター月齢別講座(看護学部)	生涯学習
2014年2月2日	日本語・日本文化講座(15)	生涯学習
2014年2月4日	幼児教育センター月齢別講座(看護学部)	生涯学習
2014年2月5日	第4回地域研究部門会議	地域研究
2014年2月6日	幼児教育センター月齢別講座(看護学部)	生涯学習
2014年2月7日	地域研究交流センターニューズレター「tobira」第21号発行	情報発信
2014年2月7日	幼児教育センター月齢別講座(人間福祉学部)	生涯学習
2014年2月9日	県民コミュニティカレッジ広域講座(ワークショップ①)	生涯学習
2014年2月9日	県民コミュニティカレッジ(やまなし地域協働フォーラム)	生涯学習
2014年2月13日	幼児教育センター月齢別講座(看護学部)	生涯学習
2014年2月18日	幼児教育センター月齢別講座(看護学部)	生涯学習
2014年2月20日	第9回地域研究交流センター運営委員会	
2014年3月3日	第8回情報発信部門会議	情報発信
2014年3月13日	第10回地域研究交流センター運営委員会	
2014年3月25日	2013地域研究交流センター研究報告会	地域研究

この春、あなたが変わる！  
なりたい自分への第二歩は  
山梨県立大学から！

平成25年度

# 前期授業開放講座

今年もスタート！  
授業開放講座とは、大学の  
正規の授業を広く県民の皆  
様に学生と一緒に受講して  
いただくことができる制度  
です。このチャンスに「知りた  
い事を知る」ことの楽しさ、  
知識が知恵に変わる楽しさ  
を、ぜひ味わって下さい。



※個人差があります

## ◆受講条件:高卒程度で大丈夫

高等学校卒業程度以上の学力を有する方ならどなたでも受講応募ができます。受講の決定にあたっては、各科目担当教員が選考条件を定めまので、別途配布する募集要項でその条件をご確認ください。

## ◆授業開始日:平成25年4月12日より順次スタート

## ◆場所:山梨県立大学

●飯田キャンパス(甲府市飯田5-11-1)

●池田キャンパス(甲府市池田1-6-1)

※授業によって異なりますので、別途配布する募集要項でご確認ください。

## ◆募集要項を請求してください

受講生募集要項の事前予約を受け付けます。実際の配布は平成25年3月末頃から行う予定です。

●電話 055-224-5260 ●FAX 055-224-5386

●Eメール [ucrc-accept@yamanashi-ken.ac.jp](mailto:ucrc-accept@yamanashi-ken.ac.jp)

平成25年度前期山梨県立大学授業開放講座受講生募集要項の送付をお申し込みください。なお、Eメールの場合、件名として「平成25年度前期山梨県立大学授業開放講座受講生募集要項の送付希望」とお書きいただき、氏名、住所、電話番号を必ずご記入ください。

## ◆講座の試聴ができます

受講を考えているが、講座の内容がよく分からないという方は、平成25年4月12日から19日まで講座の試聴をすることができます。

●FAX055-224-5386、●Eメール [ucrc-accept@yamanashi-ken.ac.jp](mailto:ucrc-accept@yamanashi-ken.ac.jp)

FAXかEメールのいずれかで受講しようとする科目の開講の前日までに山梨県立大学授業開放講座試聴申込書を提出してください。

## ◆受講申込書の送付先及び申込期限

〒400-0035 山梨県甲府市飯田5-11-1 山梨県立大学学務課  
平成25年4月19日午後5時(必着)



# 日本で生活する外国人のための 日本語・日本文化講座



For foreigners living in Japan,  
Japanese language and culture course  
外国人生活在日本、日本語言興文化課程

일본에서 생활하는 외국인을 위한 일본어 일본문화 강좌

Para os estrangeiros que vivem no Japão Curso de língua e cultura japonesa

Para los extranjeros que viven en Japón Curso de lengua y cultura japonesa



❖ **日時** 毎週日曜日 13:00~15:00

❖ **場所** 山梨県立大学

❖ **期間** 1期: 6月2日、6月9日、6月16日、6月23日  
7月7日(文化講座)、7月21日(全6回)

2期: 10月6日、10月20日、10月27日、  
11月10日、11月17日、12月1日  
12月8日(文化講座)、1月26日、2月2日  
(全9回)

❖ **クラス** ◆文字クラス  
◆会話1、2、3クラス  
◆日本文化について

❖ **受講料** 無料(※但し教材は実費)

❖ **駐車場** あり

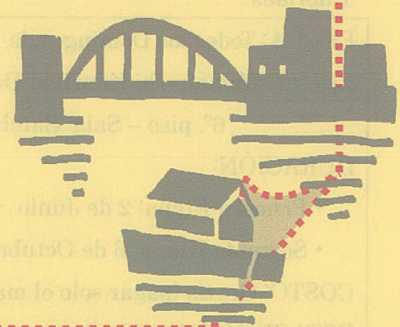


お問い合わせ先

山梨県立大学学務課  
055-224-5260

❖ **主催** 山梨県立大学/甲府市

❖ **連携** ソリタリダー-日本語教室



山梨県立大学地域研究交流センター

# 2013 春季総合講座

特別企画

山梨県立大学3学部共催講座

〈テーマ〉

## 知から生まれる 遊び、楽しみ、癒し

言葉でなくても伝わる、言葉でなくても感じる、そんな経験を誰もがもちたいと思います。

今回はノンバーバル・コミュニケーションという言葉を用いないコミュニケーション方法をテーマに、

演劇、音楽、アロマセラピーの専門家が、それぞれの「知」から得られる「遊び」、「楽しみ」、「癒し」についてご紹介します。

子どもから大人まで誰でもお楽しみいただける講座です。

勉強は苦手と思われる方も、ちょっと息抜きに「知」でリラックスしてみませんか？

### ●内容

遊び

#### 「舞台で遊ぶ 舞台から伝える」

伊藤 ゆかり准教授(国際政策学部)

楽しみ

#### 「音の楽しみ - EXILEの中のショパン -」

村木 洋子准教授(人間福祉学部)

癒し

#### 「かおりと癒し」

前澤 美代子講師(看護学部)

### ◆開催日時・場所

平成25年6月8日(土曜日) 午後1時30分~4時

山梨県立大学飯田キャンパス(甲府市飯田5-11-1) 講堂

参加費無料

### ◆参加申し込み

電話(055-224-5260)、FAX(055-224-5386)、Eメール(ucre-accept@yamanashi-ken.ac.jp)にてお申し込みください。なお、FAXまたはEメールの場合、件名として「春季総合講座への参加希望」をお書きいただき、氏名、住所、電話番号を必ずご記入ください。

### ◆主催: 山梨県立大学 地域研究交流センター



**山梨県立大学**

飯田キャンパス(国際政策学部・人間福祉学部)

〒400-0035 山梨県甲府市飯田5-11-1 TEL.055-224-5261 FAX.055-228-6819



山梨県立大学人間福祉学部・地域研究交流センター共催

# 人間福祉学部講演会

## テーマ：「厚生労働省の 保健福祉政策動向と重点課題」

日 時：2013年6月14日（金）14時50分～16時10分

場 所：サテライト教室（山梨県立大学飯田キャンパス A 棟 6 階）

講 師 厚生労働省 政策評価官 峯村芳樹 氏

座 長：本学福祉コミュニティ学科長 西澤 哲 氏

対 象：学生・地域関係機関職員・地域住民

厚生労働白書は、厚生労働行政の現状や今後の見通しなどを、広く国民に伝えることを目的に毎年8月に年一回公表され、平成25年度で56冊目となります。厚生労働白書は、社会保障の目的や機能、日本の社会と社会保障の現状、これからの課題等について、国際比較、意識調査結果や社会を考える論理、哲学等も紹介しながら、学生等の若者世代も読者と想定し、わかりやすく説明されています。

峯村氏は平成25年度厚生労働白書を担当しており、当該年度の厚生労働省の施策を俯瞰し広報できる立場です。この講演会は、厚生労働省の福祉政策の動向と重点課題に関して、その概要や要点を学ぶことの出来る貴重な機会で、国の政策動向と実践の関係について議論を深める場となります。

みなさまのご参加をお待ちしています。

問い合わせ先・山梨県立大学地域研究交流センター

TEL：055-224-5260 e-mail. [ucrc-accept@yamanashi-ken.ac.jp](mailto:ucrc-accept@yamanashi-ken.ac.jp)



山梨県立大学  
観光講座2013

# 南アルプスの 自然と文化

～富士山との比較で探る～

富士山が日本の最高峰であるのは多くの人が知るところです。  
でも、日本の第2位の高峰も実は山梨にあることは意外に知られていません。  
それが南アルプスの北岳です。

南アルプスの成り立ちや高山植物やライチョウをはじめとする  
豊かな自然や景観について、富士山と比較しながらその特徴を明らかにします。

## 1. 南アルプスの山岳景観

(平成25年7月21日(日) 13:30～16:30)

- 1-1: 南アルプスの景観と今日 芦安山岳館館長 塩沢久仙氏  
1-2: 南アルプス山麓の文化的景観 山梨県埋蔵文化財センター元所長 新津 健氏

## 2. 南アルプスの形成史の進歩と山麓遺跡

(平成25年8月11日(日) 13:30～16:30)

- 2-1: 南アルプスの上昇史と氷河期の痕跡 山梨県立大学地域研究交流センター 輿水達司特任教授  
2-2: 南アルプス山麓の治水・利水の文化と技術 南アルプス市教育委員会 斎藤秀樹氏

## 3. 南アルプスの植物・森林の特性と保全

(平成25年9月1日(日) 13:30～16:30)

- 3-1: 南アルプスの特異な植生 山梨県植物研究会 大久保栄治氏  
3-2: 南アルプスの山岳環境の保全 環境省南アルプス自然保護官事務所 中村 仁氏

## 4. 南アルプスの動物生態を変化させる環境

(平成25年9月8日(日) 13:30～16:30)

- 4-1: 蝶類から南アルプスの環境変化を探る 日本環境動物昆虫学会 北原正彦氏  
4-2: 南アルプスのライチョウの生息状況 やまなし野鳥の会 村山 力氏

## 5. 南アルプスの信仰と登山の歴史

(平成25年9月22日(日) 13:30～16:30)

- 5-1: 民話や遺跡からさぐる南アルプスの山岳信仰 韮崎市教育委員会 関間俊明氏  
5-2: 登山史と文学からみた南アルプス 日本山岳会 深沢健三氏

参加  
無料

Yamanashi Prefectural University



**開催時間** 午後1時30分～午後4時30分 (受付は午後1時から)

**開催場所** 山梨県立大学飯田キャンパス 講堂 (甲府市飯田5-11-1)

**参加申し込み** TEL.055-224-5260 FAX.055-224-5386  
E-mail ucre-accept@yamanashi-ken.ac.jp にてお申し込みください。

なお、FAXまたはE-mailの場合、件名として「観光講座への参加希望」をお書きいただき、氏名、住所、電話番号、参加希望日を必ずご記入ください。

主催：山梨県立大学 地域研究交流センター  
後援：南アルプス世界自然遺産登録山梨県連絡協議会

知られざる南アルプスの自然と文化は、山梨県の重要な観光資源です。



行動する国際人の育成を目指す 山梨県立大学国際政策学部 講演会

山梨で考える

# 「アフリカと中国」—貿易の視点から—

(英語による講演ですが日本語通訳がつかます)

講師: 米国ネブラスカ大学オマハ校経営学部

キャサリン・Y・コウ 教授

日時: 2013年7月30日 (火) 午後1時-3時

場所: 飯田キャンパスA館6階 サテライト教室

対象: 学生、国際関係に関心をお持ちの県民のみなさま

第9回APEA (アジア太平洋経済学会) 国際大会での講演のため来日される、ネブラスカ大学オマハ校経営学部のCatherine Yap Co 教授 (経済学・国際経済学分野) をお迎えして、日ごろの研究成果を踏まえ、サブサハラ地域にあるアフリカ諸国と中国との貿易関係等がもたらしている諸問題と今後の展望についてご講演いただきます。

講演の元になる論文は、アフリカ人研究者との共同研究によるものであり、近年注目を集めている中国-アフリカの経済関係について知識を深める絶好の機会となるでしょう。

Catherin Yap Co 教授略歴

1990年フィリピン大学経済学修士

1995年オーストラリア大学経済学博士

1995年西フロリダ大学講師等を経て

2006年ネブラスカ大学オマハ校教授

研究分野: 国際経済学、応用計量経済学、産業組織論

論文、著書: 途上国における中国企業等の活動、米国の貿易、特許その他知的財産権、日本の対外直接投資に関するもの等々多数



Prof. Catherine Yap Co, Ph.D.  
Department of Economics College  
of Business Administration  
University of Nebraska at Omaha

周辺地図



主催: 山梨県立大学 共催: 国際政策学部、地域研究交流センター 後援: 山梨県

協力: 総合政策学科 黒羽ゼミナール

お問い合わせ先: 国際政策学部 黒羽研究室 (055-224-5347, mkurohane@yamanashi-ken.ac.jp)



学ぶのに遅すぎる  
ということはありません。

# 「開放講座」 始まります!

授業開放講座とは、大学の正規の授業を広く県民の皆様に  
学生と一緒に受講していただくことができる講座です。

その分野での最新の情報を学ぶことができ、  
皆様の知的好奇心を大いに刺激することでしょう。

学生たちと共に学ぶ授業開放講座に、  
広く県民の皆様が受講されることをお待ち申し上げます。

## 山梨県立大学 後期 授業 開放講座 2013

### 受講条件

高等学校卒業程度以上の学力を有する方ならどなたでも受講応募ができます。受講の決定にあたっては、各科目担当教員が選考条件を定めますので、別途配布する募集要項でその条件をご確認ください。

### 授業開始日

平成25年9月27日より順次

### 場所

山梨県立大学飯田キャンパス (甲府市飯田5-11-1)  
山梨県立大学池田キャンパス (甲府市池田1-6-1)  
授業によって異なりますので、別途配布する募集要項でご確認ください。

### 募集要項の請求

受講生募集要項の事前予約を受け付けます。実際の配布は平成25年9月下旬から行う予定です。

TEL055-224-5260、FAX055-224-5386、

Eメール (ucrc-accept@yamanashi-ken.ac.jp) にて平成25年度後期山梨県立大学授業開放講座受講生募集要項の送付をお申し込みください。

なお、FAXまたはEメールの場合、件名として「平成25年度後期山梨県立大学授業開放講座受講生募集要項の送付希望」とお書きいただき、氏名、住所、電話番号を必ずご記入ください。

### 講座の試聴

受講を考えているが、講座の内容がよく分からないので確認したいという方は、平成25年9月27日から10月11日まで講座の試聴をすることができます。

TEL055-224-5260、FAX055-224-5386、

Eメール (ucrc-accept@yamanashi-ken.ac.jp) にて、受講しようとする科目の開講の前日までに山梨県立大学授業開放講座試聴申込書を提出してください。

### 受講申込書の送付先及び申込期限

〒400-0035 山梨県甲府市飯田5-11-1 山梨県立大学学務課  
平成25年10月11日 午後5時(必着)



 **山梨県立大学**  
Yamanashi Prefectural University

**飯田キャンパス** (国際政策学部・人間福祉学部)  
〒400-0035 山梨県甲府市飯田5-11-1 TEL.055-224-5261 FAX.055-228-6819

**池田キャンパス** (看護学部・大学院看護学研究科)  
〒400-0062 山梨県甲府市池田1-6-1 TEL.055-253-7780 FAX.055-253-7781



山梨県立大学地域研究交流センター  
平成25年度 健康講座

## シンポジウム “サクセスフル・エイジング(幸福な老い)”の実現に向けて ～老いを愉しむところの持ち方～

看護学部では、健康講座として地域の皆様を対象としたシンポジウムを開催します。中高年期にある参加者が歳を重ねることの意味に気づき、ひとりひとりがかれからの老年期をどのように過ごしていくかを考えるきっかけとしていただければ幸いです。関心のある方は、お問い合わせのうえ是非おいでください。

参加費  
無料

- 日時:平成25年11月16日(土) 14時～16時
- 場所:山梨県立大学池田キャンパス(甲府市池田1-6-1)

### ◆ シンポジスト

保坂 求 さん(甲府市池田地区自治会連合会 会長)  
永友 淳夫 さん(甲府市池田地区自治会連合会 副会長)  
石川 甲子 さん(甲府市池田地区 在住)

### ◆ コーディネーター

渡邊 裕子(山梨県立大学看護学部 准教授)

《お問い合わせ先》  
山梨県立大学 池田キャンパス事務室  
電話:055-253-7780

山梨県立大学地域研究交流センター  
ソーシャルワークセミナー2013

誰もが安心して暮らせる地域づくりに向けて  
～社会福祉協議会によるコミュニティソーシャルワーク実践と  
その展開システムについての報告～

日 時：2013年12月6日（金）13時30分～16時00分

場 所：サテライト教室（山梨県立大学飯田キャンパスA棟6階）

内 容：

(1)実践報告：

南アルプス市社会福祉協議会：「南アルプス市のコミュニティソーシャルワークの取り組み」

地域福祉課 中澤まゆみ氏

笛吹市社会福祉協議会「地域の世代間交流を促進するCSW実践と展開システムの現状と課題」

地域福祉課 佐々木清美氏

大月市社会福祉協議会：「CSW実践に向けての地域住民のつながりづくり」

地域福祉担当 安藤剛氏

(2)総括講演：

早稲田大学人間科学学術院 教授 田中英樹先生

対 象：県内社協職員・地域医療・保健・福祉に携わる現任職員・学生等

都市化や過疎化、少子高齢化等の進行により人と人とのつながりが希薄になっていく中で、「住み慣れた地域で暮らし続ける」ために地域での新たな支えあいが求められています。

2011年以降、山梨県社会福祉協議会等が、小地域単位でコミュニティソーシャルワークのワークショップを、甲府市、南アルプス市、笛吹市、中央市、大月市、河口湖町、韮崎市において開催し、その実践が県内市町村社協に広がっています。本セミナーより、県内社会福祉協議会によるコミュニティソーシャルワーク実践の成果を共有し、これからの取り組みに向けた情報交換や共有化を進めていきます。

共催：山梨県社会福祉協議会・山梨県立大学人間福祉学部

後援：山梨県社会福祉士会・山梨県精神保健福祉士会・山梨県医療社会事業協会・  
山梨県介護福祉士会・山梨県介護支援専門員協会

問い合わせ先・山梨県立大学地域研究交流センター

TEL：055-224-5260 FAX:055-224-5386

e-mail. ucre-accept@yamanashi-ken.ac.jp

山梨県立大学 第7回 子育て支援フォーラム

# おんがくの おへやへ ようこそ

2013

絵本のせかいと音楽との よくばりコンサート

音楽物語 『ぞうのババール』

ジャン・ド・ブリュノフ作・絵 フランシス・プーランク作曲

音楽が大好きなのに、子ども連れではコンサートへなかなか行けないですね。

今回の企画は、子育て中の皆様が、お子様と一緒に音楽を楽しむ会です。プロの演奏家としてご活躍中のお二人による演奏と参加型の音楽会。県立大からのクリスマス・プレゼントです！ぜひ、ご参加ください！



バス・バリトン独唱、朗読 **柳澤 安雄** 

川村学園女子大学幼児教育学科教授(学科長)

東京藝術大学音楽学部声楽科卒業 同大学大学院独唱専攻修了 第38回東京文化会館推薦音楽会出演 第46回NHK・毎日音楽コンクール(現日本音楽コンクール)入選 国内はもとよりロシア・ドイツ・イタリアなど海外でのオペラ公演にも多数出演 長きにわたり幼児の音楽研究に携わっている現在、東京二期会会員、二期会代議員を経て、二期会ロシア東欧オペラ研究会運営委員 さいたまシティオペラ協会会員 埼玉県音楽家協会会員



ピアノ **村木 洋子**

山梨県立大学 人間福祉学部 人間形成学科 准教授

東京藝術大学音楽学部器楽科ピアノ専攻卒業 同大学大学院音楽学専攻修了 1989年フランス音楽コンクール第3位 作・編曲の作品も多く、パソコンゲーム音楽(『冒険浪漫』システムソフト)も手がけるマルチピアニスト

演奏予定曲目

音楽物語『ぞうのババール』  
虫のこえ 里の秋 スキー  
おふろのうた ねむねむのひつじ  
クリスマスソング  
エリーゼのために  
旅の歌  
他

2013

12/7 土 14:00~15:30

会場：山梨県立大学 飯田キャンパス 講堂

対象：子育て中の方、子育て支援関係者、保育・教育関係者、学生、その他

定員：親子50組を優先 お一人のご参加もOKです！ 参加費：無料

問い合わせ・お申込み先：山梨県立大学 地域研究交流センター Tel. 055-224-5260

メールでお申込みの場合：件名を子育て支援フォーラム申込とし、[ucrc-accept@yamanashi-ken.ac.jp](mailto:ucrc-accept@yamanashi-ken.ac.jp)へ

11/29までに代表者お名前、参加人数、お子様の年齢、ご住所、ご連絡先電話(携帯可)をお知らせください。ただし、定員になり次第、締め切らせていただきます。ご了承ください。

主催：山梨県立大学 人間福祉学部 人間形成学科 共催：山梨県立大学 地域研究交流センター




日常生活や時事ニュース等で良く聞く言葉や事柄ではあるけれども、  
 知っているようで知らないこと、あるいは一つの事柄をいろいろな視点、違った視点で見ると改めて分かることがあります。  
 身近な事柄をテーマにしなが、各専門分野の講師が分かりやすく解説します。  
 この機会に「当たり前」のように思っていたことについて、少し振り返ってみませんか？

平成25年 **12月7日** 土

1. 「私」を大切にすること


人間福祉学部 准教授 山中 達也



平成25年 **12月14日** 土

2. 家庭の電気を何からつくる？  
 —もし電源を選べたら—


国際政策学部 准教授 森田 玉雪



平成26年 **1月11日** 土

3. 生活習慣病について  
 …お腹の脂肪って本当に悪者なの？


看護学部 准教授 加藤 淳也



平成26年 **1月25日** 土

4. 音楽的母語とは？  
 —子どもはことばのひびきをどのように感じているのだろうか—

人間福祉学部 特任教授 沢登 芙美子



時間:14時~15時半(受付は13時半から) 場所:山梨県立大学飯田キャンパスA館サテライト教室

**参加申し込み**

参加費は無料です。  
 電話(055-224-5260)、FAX(055-224-5386)、  
 Eメール(ucrc-accept@yamanashi-ken.ac.jp)にてお申し込みください。  
 なお、FAXまたはEメールの場合、件名として  
 「平成25年度県民コミュニティカレッジ(地域ベース)」をお書きいただき、  
 氏名、住所、電話番号、参加希望日を必ずご記入ください。

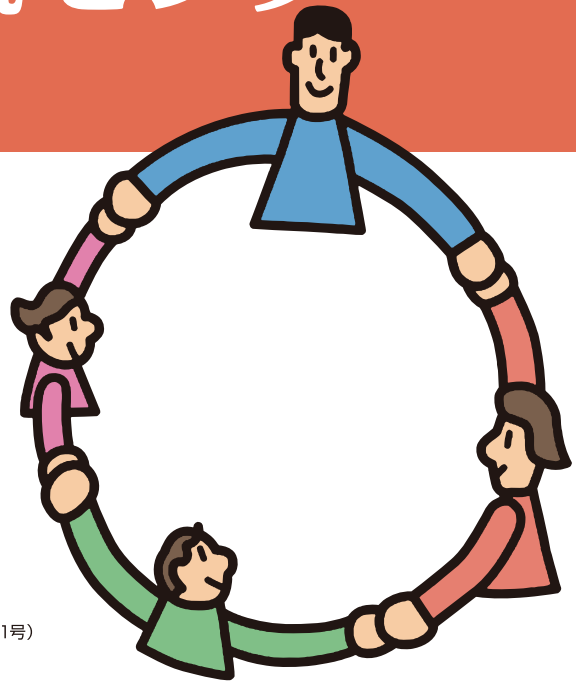
◆主催:山梨県立大学 地域研究交流センター



# 2013山梨県立大学 地域研究交流センター 研究報告会

山梨県立大学地域研究交流センターでは、大学の知的資源を有効に活用することによって地域社会の発展に寄与したいと考え、本学教員による地域貢献に資する研究に対して支援を行って参りました。今年度もその成果を地域により広く発信し、より多く還元することを目的として「地域研究交流センター研究報告会」を実施します。どうぞお気軽にご参加ください。

- 開催日時  
平成26年3月25日(火) 13:30～
- 開催場所  
山梨県立大学  
飯田キャンパス サテライト教室(甲府市飯田五丁目11番1号)



## プログラム

時間	研究テーマ	共同研究者代表
13:40～14:10	高齢者への見守りと地域連携の総合的研究Ⅱ	澁谷 彰久 (国際政策学部教授)
14:10～14:40	山梨県に在住する外国人児童生徒の健全な育成に向けて～日本語を母語としない児童生徒及び保護者のための進路進学ガイド作成プロジェクト～	安藤 淑子 (国際政策学部准教授)
14:40～15:10	地域資源を教育資源に～地域文化・資源の継承・発展に関する教育活動支援の実施～	八代 一浩 (国際政策学部准教授)
15:10～15:30	休憩	
15:30～16:00	地域資源を活かしたビジネス展開の可能性について～甲斐絹の伝承と発信のためのプログラム開発～	斉藤 秀子 (人間福祉学部教授)
16:00～16:30	高齢者のサクセスフル・エイジング実現に向けての基礎的研究～地域在住高齢者と若者(大学生)との異世代間交流を通して～	渡邊 裕子 (看護学部准教授)
16:30～17:00	山間過疎地域で暮らす独居・夫婦世帯高齢者の支援に関する研究～後期高齢者の安心感のある暮らしに焦点をあてて～	森田 祐代 (看護学部助教)
17:00～17:30	多文化共生推進プロジェクト:保健・医療・福祉における大学・地域・行政の連携に向けて	長坂 香織 (看護学部准教授)

- 受講** 参加費無料で出入り自由です。  
**方法** 事前の申し込みも不要ですので、お気軽にご参加ください。

問い合わせ先 **山梨県立大学 地域研究交流センター** TEL055-224-5260

地域社会の発展は  
コミュニケーションの  
輪から生まれます。



山梨県立大学  
Yamanashi Prefectural University



---

2013 年度 山梨県立大学 地域研究交流センター 年報

---

発行者：地域研究交流センター長 吉田 均  
編集：地域研究交流センター 情報発信部門  
部門長 藤谷 秀 (福祉コミュニティ学科)  
石山 宏 (総合政策学科)  
箕浦 一哉 (総合政策学科)  
八代 一浩 (国際コミュニケーション学科)  
古屋 祥子 (人間形成学科)  
大久保 ひろ美 (看護学科)

発行所：山梨県立大学地域研究交流センター

住所：〒400-0035 山梨県甲府市飯田 5 丁目 11-1

TEL：055-224-5260 FAX：055-224-5386

E-mail: [ucrc@yamanashi-ken.ac.jp](mailto:ucrc@yamanashi-ken.ac.jp)

URL: <http://www.yamanashi-ken.ac.jp/ucrc/>

発行日：2014 年 5 月 20 日

---

